九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

スペイン語serコピュラ文のpretérito perfecto simple による表出とpretérito imperfectoによる表出

山村, ひろみ
九州大学大学院言語文化研究院

https://doi.org/10.15017/1654394

出版情報：言語文化叢書. 8, pp.1-45, 2003-03-20. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

スペイン語 ser コピュラ文の pretérito perfecto simple による表出と pretérito imperfecto による表出

九州大学大学院言語文化研究院
山村ひろみ

0. はじめに

スペイン語には過去の事態に言及する単純時制形式に pretérito perfecto simple(以下，ps.と略記)と pretérito imperfecto(以下，imp.と略記)の二種類がある．これら二形式の機能的差異は通常当該事態の時間的限定の有無を表示する「アスペクト」の違いと説明されているが，ps.と imp.の実態を眺めてみるとこのアスペクト的説明とは相容れない事例が少なくないことが分かる．なかでも，山村(1996, 1997b)でも指摘されたように，Vendler の分類の state に属す一連の事態の ps.と imp.による表出は当該事態の時間的限定の有無の表示というアスペクト的説明では解釈の難しいものがきわめて多く，これら二形式の差異をアスペクトという範疇によって理解することの妥当性さえ疑問視させるほどである．そこで本稿は，state 事態のなかでも特に動詞としての意味的性質が希薄と思われるコピュラ動詞 ser[1]にみられる ps.と imp.の振る舞いを取り上げ，同動詞における両形式の差異を明示すると考えられる諸現象を詳細に観察すると同時に，それら諸現象を整合的に説明することのできる ps.と imp.の機能的定義の提案を目指す．この独自の意味を欠いたコピュラ動詞における ps.と imp.の綿密な観察およびその実態を包括的に説明することのできる両形式の機能の提示は，スペイン語の ps.と imp.のもっとも基本的な機能を分析し考察する際の一助になると思われる．

以下，本稿の構成を示すと次のようになる．まず，第１節では，従来のアスペクト的説明では解釈しにくい ser の ps.による表出例を扱った山村(1997b)を取り上げ，ps.と imp.

---

[1] スペイン語にはコピュラに ser と estar の二つの動詞がある．これら二動詞の違いについてはこれまでにも様々に議論されてきたが，本稿はその点には触れず，各動詞が補語とすることのできる品詞の違いについてのみ言及しておく．すなわち，ser はその補語として名詞句，形容詞句，副詞句を取ることができるが，estar はその補語として形容詞句，副詞句しか取ることができない．以下，ser，estar の各例を示す．下線は ser，点線は estar を指す．

i) ser+名詞句： Yo soy estudiante. 私は学生です.
María es una chica muy simpática. マリアはとても感じがよい女の子です.
ser+形容詞句：José es muy alto. ホセはとても背が高い.
Mi habitación es grande. 私の部屋は大きい.
ser+副詞句： La clase de español es a las nueve. スペイン語の授業は９時です.
La clase de español es en esta aula スペイン語の授業はこの教室です.

ii) estar+形容詞句：José está muy cansado. ホセはとても疲れています.
Mi habitación está desordenada. 私の部屋は散らかっています.
estar+副詞句：Carmen está en la biblioteca. カルメンは図書館にいます.
La clase está al fondo del pasillo. その教室は廊下のつきあたりです.

の違いをアスペクトによって説明しようとする際の問題点を明らかにする．次の第２節では，第１節の問題点を踏まえ，ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文の解釈上の違いを明確に示していると思われる諸現象を抜き出す．続く第３節では，第２節の観察結果に基づき，ser 文の ps.と imp.による表出の違いをうまく説明することのできる，アスペクト説とは異なる新たな解釈を提案し，その妥当性を検証する．そして，最後の第４節では，以上の総括を行う．

1. 山村(1997b)における ser コピュラ文の pretérito perfecto simple の扱い

山村(1997b)は，コピュラ動詞 ser が ps.によって表出される際の振る舞いを詳しく観察することを通して，ps.と imp.の機能的差異をアスペクトの違いとする従来の説（以下，アスペクト説）の妥当性に疑義を呈したものである．ここでいうアスペクト説とは ps.と imp.の機能的差異を当該事態の時間的限定性の表示の有無という二項対立で捉える解釈のことで，それにしたがえば ps.は当該事態の時間的限定性を表示することから有標の完了アスペクト(perfectivo)を，また，imp.は当該事態の時間的限定性には言及しないことから無標の不完了アスペクト(imperfectivo)を付与されることになる．このアスペクト説は一般にも広く流布しており，多くの文法書が同説を ps.と imp.の違いを説明する基本原理として採用している．しかし，この説は ps.と imp.の機能的差異をすべて説明するできるわけではない．山村(1997b)でも指摘されたように，ser の ps.の実態を観察しただけでもアスペクト説の反例とみなされるような事例が散見されるからである．以下の例を参照されたい．下線は ser の ps.を指す．

(1) Desde aquel día él y yo <u>fuimos</u> amigos. (山村 1997b:88)
　あの日以来，彼と私は友達だった．
(2) Él <u>fue</u> pionero en este tema. (Ibid.)
　彼はそのテーマのパイオニアだった．
(3) ¿ Qué tal <u>fue</u> el viaje ? … <u>Fue</u> un viaje maravilloso. (Ibid.:93)
　旅はどうだった？　素晴らしい旅だった．
(4) ??María <u>fue</u> niña.(Ibid.:83)　マリアはこどもだった．
(4)' María <u>fue</u> una niña mala. (Ibid.)　マリアは悪いこどもだった．
(5) Cuando María *<u>fue</u> niña, ... (Ibid.)　マリアがこどもだった時,...
(5)'Cuando María <u>fue</u> una niña mala, ... (Ibid.) マリアが悪いこどもだった時,...

アスペクト説が準拠する当該事態の時間的限定性とは，一般に，その事態の開始点と終結点との明示と解釈されている．その解釈を ser の ps.による表出にそのまま適用するならば，それは当該コピュラ文の発話時における無効を意味することになろう．すなわち，アスペクト説によれば，ps.によって表出された ser 文は過去において成立した主語と補語の

等号関係（等号記号"＝"によって示される関係）が発話時においては終了し有効ではなくなっていることを示すと解釈されるのである．しかしながら，上記の例文はどれもそのような解釈とは相容れない．(1)は主語 él y yo「彼と私」と補語 amigos「友人」との等号関係が aquel día「あの日」という特定の時点から成立したことを示しているだけで，その主語と補語の関係が発話時において無効か否かはこの文脈だけからは判断できない．(2)も(1)と同様に，主語 él「彼」と補語 pionero (en este tema)「(このテーマにおける)パイオニア」の間に等号関係が成立したことを示しているが，この関係は発話時においても無効になることはない．pionero という名詞の意味内容は amigo とは違い，その有効期間に限定性がないからである[2]．(3)の主語 el viaje「その旅」と補語 un viaje maravilloso「素晴らしい旅」の関係も(2)と同じく，発話時において無効になることはなく常に有効とみなされる．なぜなら，この例において発話時に終了しているのは主語 el viaje「旅」の活動であり，その主語の示す活動に対する評価を表す形容詞 maravilloso「素晴らしい」の価値自体は発話時においても有効であり続けるからである．一方，(4)(4)'(5)(5)'の例は上記の例とは別の意味でアスペクト説の欠陥を示すものである．これらの例ではみな補語に niña「(女の) こども」が用いられているが，この名詞の意味内容にはもともと時間的限定性が備わっている．世間知によれば，人間は生まれてから「こども」の時期を経て「大人」へと成長していくものであり，その意味において人間が「こども」でいる期間は限られていると考えられるからである．そのような観点からすれば，この niña「こども」という名詞が ps.によって表出された ser と結びつくことには何の問題もないと予想されるが，実際は(4)(5)が示すように非文性が高くなる[3]．また，面白いことに，(4)'(5)'が示すように，この niña という名詞に mala「悪い」のような評価を表す形容詞が付加されると(4)(5)の非文性は解消され文法的になる．これらの現象はどちらもアスペクト説を支持する者にとっては看過できないものと思われるが，筆者の知る限り，これまでこれらに言及し解説を加えたアスペクト論者はいない[4]．

さて，(1)から(5)にみられる ps.によって表出された ser の実態をもとに，山村(1997b)は ps.の基本的機能を過去の事態の時間的限定性表示にあるとするアスペクト説には問題があると結論づけた．そして，同論文が観察対象とした ps.によって表出された ser の実態をうまく説明するには，従来のアスペクト説ではなく山村(1996)で提案された ps.の新たな

---

[2] 何かの分野で pionero「パイオニア」と認められた人は終生その属性を有すると考えるのが一般的である．他方，amigo「友達」というのは何かのきっかけでその関係が破局することもあるという意味で，pionero に比べると時間的限定性があるといえる．

[3] 山村(1997b)ではまだインターネットによる調査は行なわれていなかった．今回新たに yahoo.es を用い cuando fui niño の検索をしたところ，いくつかの例が存在することが分かった．しかし，その頻度はきわめて低く，imp.で表出された cuando era niño の方が圧倒的に多かったという点は山村(1997b)の観察と変わりなかった．

[4] 研究者の中には Porto Dapena(1989:89)のように，命題によっては ps.あるいは imp.の一方でしか表出されないことを指摘する者はいる．しかし，なぜそのような現象が起こるのかをアスペクト説の枠組みのなかで整合性をもって解説している者は筆者の知る限りいない．

解釈こそ有効であるとした．この山村(1996)で提案されたps.の新解釈とは，簡単にいえば，「ps.は当該命題の不成立から成立への変化を示す」というものであるが，この妥当性については，次節でps.によって表出されたser文とimp.によって表出されたser文との相違を観察した後，詳しく検討する．

2. 観察

本節ではスペインで発行されている週刊誌 Cambio16 のインタビュー記事に出現するps.によって表出されたser文とimp.によって表出されたser文とを比較対照し，ser文におけるps.とimp.の機能的差異の所在を明らかにする．

2.1. 補語の特徴に基づくps.によって表出されたser文とimp.によって表出されたser文の比較

本項では，ps.によって表出されたser文とimp.で表出されたser文をその補語の特徴に基づき比較していく．

2.1.1. 補語として名詞句をしたがえる場合の意味特徴

今回の観察対象になったのはps.で表出されたser文376例およびimp.で表出されたser文336例である．これらの例を比較対照する際の基準として，まずser文の補語として出現した名詞句の意味的特徴を取り上げたい．ps.のser文とimp.のser文の違いは補語，とりわけ，その名詞句のあり方の違いに如実に反映されていると思われるからである．

ps.で表出されたser文のうち補語に名詞句をしたがえていたものは全部で218例，imp.で表出されたser文のうち補語に名詞句をしたがえていたものは全部で205例であった．この数字だけをみると両者の間には特筆すべき違いはないように思われるが，ここで問題とする名詞句の意味特徴に注目すると，以下に述べるようないくつかの顕著な違いがある．

2.1.1.1. 補語名詞句が出来事を示す場合

最初に指摘すべきは，ps.で表出されたser文の補語にみられる出来事名詞句の多さ(60/218，27.5%)と，逆に，imp.で表出されたser文の補語におけるその少なさ(21/205，10.2%)である．次の例を参照されたい．下線はserのps.，点線はserのimp，斜体は出来事名詞を指す．

(6) ---Lo hice en el pasado y <u>fue</u> un *fracaso,* hoy nadie con dos dedos de frente arriesgaría su dinero. (1269:58)[5]

私は過去にそれをしましたが失敗でした，いまどき誰も額に二本指をあてながら自分の金を危険にさらすことはしないでしょう．

---

[5] "---"はインタビューの応答の開始を示す．また，括弧内は順にCambio16の号数とページ数を示す．

(7) No premedité la muerte de Dag, fue un *accidente*, pudo ser él o yo, ... (1275:103)
私は Dag の死を計画しなかった，あれは事故だった，（死んだのは）彼かもしれなかったし私かもしれなかった．

(8) Sin embargo, en 1994 no hubo tal declaración, pero sí alto el fuego. ¿ Cómo interpreta este hecho ? ··· Fue una *decisión* pragmática, ... (1265:26)
しかしながら，1994 年にはそのような宣言はありませんでした，でも停戦はあった．この事実をどのように解釈なさいますか．ーそれはプラグマティックな決定だった（んです）[6].

(9) ¿ Por qué se casó el 23 de junio de 1993 con Lyle Lovett ? ··· ¡ Por probar lo que era el matrimonio ! Fue una *experiencia* decepcionante. (1284:98)
なぜ 1993 年の 6 月 23 日に Lyle Lovett と結婚したのですか．ー結婚がどんなものかを試すためですよ！　失望させられる経験でした．

(10) Traté de persuadir a Hermanos al Rescate de no continuar esos vuelos, persuadirlos de que no hicieran esto porque era una *locura*, no tenía sentido. (1268:31)
私は Hermanos al Rescate にそのような飛行は続けるな，それはやるなと説得を試みました，だってそれは狂気の沙汰でしたし，意味がなかったからです．

(11) ··· He hecho lo que me apetecía. Como a otros de mi época lo que me gustaba era la *agitación* cultural y nos divertíamos con ello... (1283:65)
私はやりたいことをやりました．同時代の他の人たちと同じように私が好きだったのは文化的アジテーションでした，私たちはそれで楽しんでいました．

(6)(7)(8)(9)にみられるような出来事を示す名詞句を補語とした ps.によって表出された ser 文は，主語の指示する事物・事態がある特定の時点に生起し，その結果が当該補語の示す内容と等しいものであったことを意味するが，それはこのタイプの補語となる出来事名詞句が fracaso「失敗」，éxito「成功」，accidente「事故」といったその意味の中に何らかの評価を含むものであったり，una experiencia decepcionante「失望させられる経験」という名詞句のように，出来事を表す名詞に評価を表す形容詞が付加されたものであることが多いことによって知ることができる．一方，出来事名詞句を補語とする imp.によって表出された ser 文は ps.の ser 文とは異なり，主語の指示する事物・事態がある特定の時点に生起したことを示してはいない．そのため，この場合の補語の出来事名詞句は一般に主語の属性として理解される．このことは imp.の ser 文の補語として出現した出来事名詞句は(10)のように「出来事」名詞句として分類していいのかどうか判断に迷うものが少なくなかったことによっても示されている．

---

[6] 対応するスペイン語の訳に日本語の「ノダ」を付加すべきか否か，また，それが可能か否かは対照言語学的に非常に興味深い問題である．しかし，本稿はそれについては論じず，日本語として不自然でない訳をつけるにとどめた．

ser 文の出来事名詞句との共起のあり方はそのまま不定詞との共起のあり方に対応し，ps.の ser 文で不定詞を補語とするものは 16 例(16/218, 7.3%)，imp.の ser 文で不定詞を補語とするものは 7 例(7/205, 3.4%)であった．動詞の不定詞がその「動的」意味特徴を出来事名詞句と共有することを考慮するならば，この結果は納得のいくものであろう．以下，その例をあげる．斜体は不定詞を指す．

(12) ···A mí lo que peor me supo fue *quitar* la escena en la que las concubinas me violaban repetidas veces. (1261:71)
僕がもっともまずく感じたのは僕の愛人たちが何回も僕を襲うシーンをカットしたことでした．

(13) ··· Lo que más me interesaba en este trabajo era *hablar* sobre una sociedad que mira, y sobre las consecuencias de mirar. (1273:98)
この仕事の中で私がもっとも興味を引かれていたのは注視する社会，その注視の影響について話すことでした．

ser 文の補語として不定詞が出現する場合はいわゆる強調構文なので，(12)(13)は次のように書き換えることが可能である．

(12)' A mí me supo peor *quitar* la escena en la que ....
(13)' En este trabajo me interesaba más *hablar* sobre una sociedad que ...

そして，当該 ser 文の解釈もこれら書き換えられた単文のそれに準じたものとなるため，(12)では不定詞の表す事態が ser の主語となる事態を引き起こしたものと解釈され，結果として，不定詞の示す事態が発話時以前の特定時に生起したという理解が生まれることになる．他方，imp.の ser 文である(13)では，(12)と同じく不定詞の事態が ser の主語となる事態を引き起こしてはいるものの，その生起は特定時に限定されたものではないことから，当該不定詞事態は ser の主語となる事態の属性のように解釈されることになる．この違いは以下にみられるように，ps.の ser 文では，主語となる名詞句の一部に当該不定詞の示す事態が実際に生起したことを意味する hacer「する」の ps.が出現したり(14)，主語である出来事名詞にその時間的序列を示す序数詞を伴ったものが多いのに対し(15,16)，imp.の ser 文では，主語となる名詞句として非出来事名詞である事物を示す名詞や評価を表す抽象名詞が出現するという事実によっても確認できる (17,18)．

(14) ··· Mis padres fueron muy permisivos en este sentido, mi educación fue liberal y sobre todo sana. Lo único que hice fue *dar rienda suleta a* mis instintos. (1275:29)
私の両親はその意味においてとても寛容でした，私の教育は自由でとりわけ健全でした．私

はただ本能がおもむくままにしていただけだった（んです）[私が行なった唯一のことは本能がおもむくままにさせることでした].

(15) Lo primero que hice cuando me llamó el consejero del Interior, fue *felicitar* a la Ertzaintza. (1272:33)
内務省の顧問官から電話があったとき私が最初にしたのは Ertzaintza を祝福することでした.

(16) He tenido cinco meses de vacaciones, reflexionando sobre mi futuro. Mi primera decisión fue *cambiar* de estado civil. (1269:54)
私は５ヶ月の休暇を取り，自分の将来についてよく考えてみました．私の最初の決断は籍を変えることでした.

(17) … Queríamos crear un sonido universal, que llegase a todas las personas, a todas las culturas y la única forma de conseguirlo era *ofrecer* sonidos que uno no tiene que descifrar, solo escuchar. (1267:105)
私たちは普遍的なサウンド，すべての人に届く，すべての文化に届くようなサウンドが作りたかったのです，そしてそれを達成する唯一の形式は読み解く必要のない，ただ聞きさえすればよい音を提供することだった（のです）.

(18) Repito que desconozco los contactos que mantuvo mi padre para conseguir mejorar mis condiciones carcelarias, si fue o no la Mafia es algo que no me importa, lo importante era *conseguir* algo y él lo hizo en el momento adecuado. (1275:103)
繰り返しますが，私は刑務所内の条件をよくするために父が取ったコンタクトについては知りません，それがマフィアだったかどうだかはどうでもいいことです，大切なのは何かを達成するということでした，そして父はそれを適宜行なった（のです）.

2.1.1.2. 補語名詞句が人を示す場合

次に，補語となる名詞句が非出来事名詞句の場合をみてみる．まず，人を示す名詞句が ser 文の補語となっている場合であるが，ps.によって表出された ser 文は全部で 68 例 (68/218, 31.2%), imp.で表出された表出された ser 文は 87 例(87/205, 42.4%)であった．出現頻度という観点からすれば，ser 文の補語が人を表す名詞の場合には出来事名詞の場合とは逆に imp.で表出されやすいことが分かる.

ser 文の補語として出現した人を表す名詞句には hombre「男性」mujer「女性」といった単に性別・人であることを示すもの，niño/a「(男/女の)こども」joven「若者」のように年齢・年代差を示すもの，lector「講師」músico「ミュージシャン」のように職業・身分を示すもの，amigo「友だち」amante「愛人」のように人間関係を示すもの，さらに，ídolo「アイドル」protagonista「主人公」pionero「パイオニア」といった当該人物の役割・価値を示すもののように様々な種類があるが，当該 ser 文が ps.で表出されるか imp.で表出されるかは，以下に示すように，これらの種類と何らかの関係があるように思われる.

補語となる人を表す名詞句に何らかの評価・価値判断が含まれている場合，当該 ser 文は ps.で表出される傾向がある．以下，例をあげる．問題の名詞句は斜体で示す．

(19) --- ¿ Qué fue lo que más le interesó de Richard Nixon ? --- Las contradicciones. Toda historia que tiene contradicciones es interesante y Nixon fue *un hombre totalmente contradictorio.* (1260:71)
Richard Nixon の中でもっとも興味を持ったのは何でしたか．---矛盾です．矛盾を持つ歴史はなんでも面白いですが Nixon はまったく矛盾した人でした．

(19)' --- Dicen que después de la muerte de Miterrand ya no quedan grandes hombres políticos en Europa. --- Miterrand no era *un hombre extraordinario.* Era *un buen europeo.* (1281:82)
Miterrand が死んで以降，もうヨーロッパには偉大な政治家は残っていないと言われています．--- Miterrand は並外れた人ではなかった．彼は良きヨーロッパ人でした．

(20) --- Dice que Fanny fue *la primera mujer moderna.* --- Era moderna porque intentaba hacer lo mismo que las mujeres de hoy en día... (1265:101)
あなたは Fanny は最初の近代的女性だったとおっしゃっています．---彼女は近代的でした，というのも今日の女性と同じことをしようとしていたからです．

(21) --- El guión de Sentido y Sensibilidad, ¿ ha sido importante para usted ? --- Siempre fui *una admiradora acérrima* de la escritora Jane Austin... (1269:52)
Sentido y Sensibilidad の脚本はあなたにとって重要でしたか．---私は常に作家 Jane Austin の熱心なファンだった(んです)．

(22)[7] Fue casi *un niño prodigio*: a los 16 años ya escribía en los periódicos y consiguió estrenar su primera obra de teatro. (1254:90)
彼はほとんど天才少年だった．16 歳ですでに新聞に記事を寄せ，最初の劇作を上演することを達成したからだ．

(19)(19)'はどちらも故人について述べた ser 文であるが，ps.と imp.の異なる形式で表出されている．もしアスペクト説のいうように ps.と imp.の基本的差異が当該事態の時間的限定性の表示の有無にあるとするならば，どちらか一方の形式が選択されることが予想されるが，ここでもその予想は裏切られている[8]．

---

[7] (22)はインタビューを受ける相手のプロフィールを紹介する記事の中に出現した例である．
[8] アスペクト説をとる Alarcos(1980[3]:127)は，ps.による表出は補語の実質が主語の指す人物の死により終結したことを示すのに対し，imp.による表出は当該人物の死について何ら言及しない，と述べている．しかし，imp.で表出された(19)'の文脈をみると，主語の示す人物が死去した後の情勢に焦点があたっているのが分かる．つまり，imp.と主語の指示人物の死は Alarcos のいうように無関係ではないということである．その意味において，この例もまたアスペクト説の不備を示すものと考えられる．

今回の調査結果によれば，補語が人を表す名詞句の ser 文における ps.と imp.の選択は，主語の指す人物に対する評価・価値判断の成立の有無によっているのではないかと思われる．例えば，(20)にみられるように，当該補語名詞句の中に序数詞が含まれている場合は圧倒的に ps.が好まれるが[9]，ここで用いられる ps.は主語の指す人物の活動・行動の成立に合わせ，主語に対する順序付けという評価が成立したことを表出していると考えられる．同様に，(21)は，話者が自分自身の活動を省みてどのような人物だったかの判断を下したことを示していると思われる[10]．このように考えるならば，第 1 節で取り上げた(22)の解釈も自ずと明らかになってくるだろう．すなわち，この例は，話者が主語の示す人物の過去の活動[11]を un niño prodigio「天才少年」に相応しい所業と断定した，換言すれば，主語の指す人物と補語の示す内容の間に等号関係が成立したと判断したことを表しているのである．

それでは，補語に人を表す名詞句が出現する ser 文が imp.で表出される場合の解釈はどうなるのだろうか．この点を考える際にも，当該 ser 文に出現する人を表す名詞句の種類・性質に注目するとよい．今回の調査によれば，imp.で表出された ser 文に出現する人を表す名詞句には職業・身分を示すもの，niño/a「こども」joven「若者」のように年代を示すもの，judío「ユダヤ人」のように出自を示すもの，amigo「友だち」vecino「隣人」のように人間関係を示すものが多かった．以下，例を示す．当該名詞句は斜体で示す．

(23)[12] Fue precoz. Igual que la nueva ministra de Cultura, María Jesús Muriel a los 23 años ya era *jueza*. (1280:28)

彼女は早熟だった．新文化大臣と同じく，María Jesús Muriel は 23 歳ですでに裁判官だった．

(23)'[13] Nació en Madrid en 1938. Fue *director* en funciones del desaprecido Diario Madrid. (1285:98)

彼は 1938 年 Madrid で生まれた．消滅した Diario Madrid の編集長だった．

(24)…Una pregunta del pasado: ¿ Qué recuerdos tiene de su etapa durante el franquismo, cuando era *ministro* con Franco ? (1266:35)

過去についてひとつ質問．フランコ時代，フランコの大臣だったときについてどんな思い出

---

[9] 今回の調査では，次例が示すように，hombre「男性」mujer「女性」といった人を示す名詞が省略された「定冠詞＋序数詞」を補語とする ser 文はすべて ps.で表出されていた．Nosotros fuimos *los primeros* en rebajar la tarifa y Movistar asumió los precios. (1267:58)「私たちが料金を下げた最初（の人）でした，Movistar はその料金に追随した（のです）．」

[10]因みに，(22)(23)における ps.の選択はアスペクト説によっては説明されない．なぜならどちらも発話時において真であることが文脈から確認されるからである．

[11] その具体的内容はコロン“：”以下に列挙されている．

[12] この例も(22)'と同じくインタビューを受ける相手のプロフィール紹介の冒頭に出現したものである．

[13] この例も(23)とインタビューを受ける相手のプロフィール紹介の中に出てきたものである．

がありますか.

(24)' Ya tuve ocasión de destacar que De Gaull no vaciló en reciclar en sus filas a numerosos e indudables altos dignatarios y que a nadie le pareció objetable el punto, (…), ni siquiera cuando estos altos funcionarios fueron *ministros*. (1281:64)

私にはすでに, De Gaull が数多くの疑うべきもない高官を自分の戦列に加え再教育するのをためらなかったということ，しかもそのことが誰の目にも，これらの高官が大臣だった（になった）ときでさえ，非難すべきものと映らなかったことを強調する機会がありました.

(25)---Usted, ¿ qué quería ser de mayor ? --- Cuando yo era *pequeño*, no tenía verdaderas ambiciones. (1283:80)

あなたは大きくなったら何になりたかったですか. ---私は子供のころ（だったとき），これといった大望は持っていませんでした.

(26) No eran versos negativos ni negros. Lo negro era el vivir, una neguera que yo misma necesitaba para poder avanzar. --- Era entonces *una adolescente*. ¿ Los poemas siguen siendo actuales ? (1281:100)

それはネガティブな詩でも暗い詩でもありませんでした. 暗いのは生きることでした，それは前進するために私自身が必要としていた暗さでした. ---あなたは当時若者でした. 詩はいまだに今日的であり続けていますか.

(27) Galdós podía recrear Madrid porque era *canario* y estaba lejos del estigma del madrileño... (1270:71)

Galdós は Madrid を再創造することができました，というのも彼はカナリア人で Madrid の恥辱から遠かったからです

(28)--- Usted fue *vecina* de Felipe González en su casa de Madrid. ¿ Era *un buen vecino* ? (1265:67)

あなたは Felipe González の Madrid の自宅のお隣さんでした. 彼はいいお隣さんでしたか.

補語として職業・身分を示す名詞句が出現した ser 文は(23)のように imp.で表出されることが多い. しかし，このことは当該 ser 文が ps.で表出されることを排除するものではなく，今回の調査でも(23)'のように ps.で表出されたものはあった. この職業・身分を示す名詞句を補語とする ser 文における ps.と imp.の表出の違いは一見アスペクト説を強く支持するもののようにみえる. imp.で表出された(23)の内容は発話時においても有効であるのに対し, ps.で表出された(23)'は無効であることが文脈から明らかだからである. しかし，この判断は ps.あるいは imp.で表出された当該 ser 文のすべてにあてはまるわけではない. 例えば，(24)(24)'のように当該 ser 文が cuando「…のとき」節に出現した場合である. これらの例はどちらも補語として ministro「大臣」という名詞をしたがえているが，この補語と主語の発話時における真偽はどちらも偽と判断され両者の間に違いはない. つまり，(24)(24)'では, ps.と imp.という表出形式の違いがアスペクト説の主張する当該事態の発話

時における真偽解釈の違いに何ら対応していないのである．しかし，だからといって，これら二文がまったく等価といえば，そうではない．両文を取り巻く文脈をよく検討するならば，(24)の ser 文は主語の指す人物が大臣だったという事実を単に想起したものなのに対し，(24)'の ser 文は主語人物が大臣になった，大臣に任命されたという出来事に注目しているのが分かるからである．

次に，ser 文の補語として年代を示す名詞句が出現した場合をみてみよう．少なくとも今回の調査では，補語として niño/a，pequeño/a「こども」をしたがえた ser 文は，(22)の un niño prodigio「天才少年」のような場合を除き，すべて imp.によって表出されていた[14]．その典型的な例は(25)のように冠詞，形容詞ぬきで cuando 節に出現するものであるが，第1節でもみたように，このような環境で ser 文が ps.によって表出されることはない[15]．一方，joven，adolescente「若者」，また，adulto/a「大人」を補語とする ser 文は，(26)のようにもっぱら imp.で表出されていた[16]．なお，この(26)は文脈から主語と補語の真偽関係が発話時において偽であるのが明らかであり，(24)(25)同様，アスペクト説の反例とみなされる．

(27)に代表される出自を表す名詞を補語とする ser 文は imp.によって表出されるのが一般的である[17]．これは出身を示す ser 文（ser de+出身先を示す名詞）が imp.によってしか

---

[14] 今回の調査で補語として niño/a, pequeño/a をしたがえた ser 文は全部で 10 例あった．このうち ps.で表出されたのは un niño prodigio の 2 例と "Los aultos somos la consecuencia de *los niños* que fuimos."(1270:70)「我々大人は我々がそうだった子供の結果です．」の中に出現した 1 例のみ，後はすべて imp.による表出で cuando 節に冠詞，形容詞なしで出現したものだった．なお，この冠詞，形容詞なしの niño/a, pequeño/a は名詞ではなく形容詞と解釈することも可能であるが，本稿ではとりあえず名詞として扱った．

[15] 注 3 で述べたように，インターネットの yahoo.es で cuando fui niño を検索するといくつかの例が見つかったが，その数はきわめて少なかった．また，Emma Martinell 氏（スペイン，Barcelona 大学）からは，生まれたばかりの赤ん坊の性別を尋ねられた際の答えとしてなら"Fue niño/a."は可能だというコメントをいただいたが，この場合の"Fue niño/a."は「男/女（の子）だった」という意味であり，本稿が問題とする「大人」に対する「こども」という年齢差を意味したものではないことを付記しておく．

[16] 今回の調査ではみつからなかったが，viejo/a「年老いた，老人」が補語として出現する場合には ps.による表出が可能であることが確認されている．次例を参照されたい．Cuando fue muy *viejecita*, tía Ada se fue a vivir al asilo de ancianos. (Gianni Rodari, *Cuentos por teléfono*, p.67)「とってもおばあちゃんになったとき，Ada おばさんは老人ホームに引っ越しました．」

[17] canario「カナリア諸島出身の人」judío「ユダヤ人」のように出自を示す名詞を補語とした ser 文は imp.で表出されるが，国籍を示す名詞を補語とした ser 文は ps.で表出される場合がある．例えば，Miguel (1999:3047)は次のような例をあげている．

a. El portero del equipo era/*fue chileno. そのチームのゴールキーパーはチリ人だった．

b. El portero del equipo fue chileno hasta que renunció a su nacionalidad.
そのチームのゴールキーパーは国籍を捨てるまでチリ人だった．

c. El portero del equipo *era/fue siempre chileno.
そのチームのゴールキーパーはいつもチリ人だった．

Miguel によれば副詞句を伴わない a.では ps.は非文になるが，時間的限定性を明示する副詞句を伴った b.あるいは c.のように siempre「いつも」という副詞と共起する場合は ps.によって

表出されないのと平行関係にある現象と思われる[18].

最後に，人間関係を示す名詞句が ser 文の補語として出現した場合をみるが，今回の調査の中では，imp.による表出の方が ps.によるそれよりも頻度が高かった．しかし，この頻度差の意味するところは，例えば，上でみた niño/a を補語とした ser 文あるいは出自を示す名詞を補語とした ser 文にみられるそれではなく，むしろ最初に扱った職業・身分を示す名詞句がその補語となる場合の頻度の差に近い．すなわち， imp.の方が ps.よりも頻出はするものの，それは ps.による表出の困難さを含意するものではないということである．例えば，言語外現実としては同じ内容が同一のパラグラフの中で ps.と imp.の両方によって表出されている(28)を参照されたい．

(28)…①Usted fue *vecina* de Felipe González en su casa de Madrid. ②¿ Era *un buen vecino*? (1265:67)
あなたは Felipe González の Madrid の自宅のお隣さんでした. 彼はいいお隣さんでしたか.

(28)では usted で指示される人物と Felipe González が隣人同士であったことが述べられているのだが，usted が主語になっている ser 文①は ps.によって表出され，Felipe González が主語になっている ser 文②は imp.によって表出されている．このように言語外現実として同じ内容を示す ser 文が ps.と imp.の異なる二形式によって表出されるという事実は，ps.と imp.の選択には当該事態の時間的限定性という客観的基準とは別の原理が働いていることを強く示唆すると思われる．

2.1.1.3. 補語名詞句が「出来事」「人」以外を表す場合

本項では ser 文の補語が出来事名詞句，人を表す名詞句以外の場合の ps.による表出と imp.による表出の実態をみてみる．ここで扱う ser 文の補語名詞句には，以下の例が示すように，主に「事物」を示すもの，「何か…のもの」を示す algo +形容詞句，そして「時」を示すものがある．当該名詞句は斜体で示す．

(29) España fue *el primer país* donde se utilizó la guerra relámpago, en donde se bombardeó con napalm. (1266:9)
スペインは電撃戦が利用された最初の国だった，そして，その戦いではナパーム弾で爆撃が行なわれた（のです）.

(30) Me pareció un buen método para actuar mejor en la clandestinidad. Me equivoqué. Fue *un error de juicio*. (1281:64)

しか表出されないという．

18 「ser de+出身先を示す名詞」が imp.によってしか表出されないことに関しては Carrasco Gutiérrez(1998:228)を参照されたい．

私には非合法にうまく行動するにはそれがいい方法にみえました．私は間違いました．それは判断の間違いでした．

(31) ---¿ Cuándo decidió dedicarse a la música ? --- Fue *algo muy natural.* (1271:98)
あなたはいつ音楽に従事しようと決心したのですか．---それは何かとても自然なことでした．

(32)--- En aquel momento yo planteé lo que era mejor para España. Estamos hablando de abril de 1994 y planteaba que otro socialista, (…), se hiciese cargo del Gobierno. Creo que eso era *lo mejor* para España. (1260:23)
あのとき私はスペインにとって最上のことを計画しました．今話しているのは 1994 年の 4 月についてですが，私は他の社会主義者が政府を担当することを計画していたのです．それがスペインにとってベストだったと思います．

(33) En aquellos tiempos todo era *paz*, pero observándolo desde la distancia, reconozco que fue un tiempo perdido. (1254:124)
あの当時すべては平和でした，しかし今から思うと，時間のむだだったのが分かります．

(34) Al principio, no sabía cumplir con los plazos que debe cumplir un guionista. Por supuesto que aprendí. Era *algo nuevo, muy atractivo*, vinculado de alguna manera a mi labor como actriz, pero totalmente diferente. (1269:52)
最初，私は脚本家が守るべき期日をどうやって守っていいか分かりませんでした．もちろん学習はしました．それは何か新しく，とても魅力的で，いくぶん女優としての私の仕事に結びついてはいるけれど，全然違ったものでした．

(35) ¿ El segundo parto es más duro que el primero ? --- Tal vez, el primer trabajo fue muy sencillo. Era *una película tan barata* y teníamos tan poco dinero que no daba para mucho.(1273:102)
二番目の作品は最初の作品よりも大変ですか．---おそらくね，最初の仕事はとっても簡単でした．それはとっても安い映画だったし，私たちもほとんどお金がなかったから大したものではなかったんです．

(36) --- Me sentí sola y desamparada ante los ataques continuos que recibía; eso me hacía sentirme culpable de que mi matrimonio no marchara como debía. Fueron *momentos muy duros*, en los que me sentí muy mal y lloré mucho. (1283:74)
私は絶え間なくつづく攻撃を前にして孤独で見捨てられたように感じました．そのせいで私は，結婚生活が然るべくうまくいかないのは私のせいだと思っていました．それはとても辛い時期でした，私は最悪の気分で，ずいぶん泣きました．

(37) ---Durante bastante tiempo, mientras competía para abrirme camino como modelo, actuaba cegada por la ambición, pensaba únicamente en la fama y el dinero. Eran *momentos de euforia*, ... (1282:114)
かなり長い間，モデルとしての道を切り開くために戦っている間，私は盲目的に野心だけで行動していました，ただ名声とお金だけのことを考えていました．それは幸福な時期でした．

ser 文の補語名詞句が「出来事」「人」以外の場合の ps.と imp.の状況は，補語名詞句が「出来事」の場合に似ている．(29)(30)(31)にみられるように，ps.によって表出された当該文の補語には，主語の指示物が過去の出来事との関連でどう評価されたか，あるいは，主語が示す過去に生起した事態がどのように判断されるものだったかを示す名詞句が頻出するからである[19]．(32)(33)(34)が示すように，このような評価を表す名詞句は imp.によって表出された ser 文にも出現するが，その場合，これらの名詞句は主語となる事物や事態の過去における属性として理解されるだけで，そのような評価があらためて成立したという意味合いはでてこない．このことは補語名詞句が「出来事」「人」以外の ser 文が imp.によって表出される際には，(35)のように，具体的な「モノ」を示す名詞が補語となることが多いという事実とも関係していると思われる．

(36)(37)は補語に「時・期間」を示す名詞句が出現した例である．時というものが刻一刻と変化するものであることを考えれば，アスペクト説的には ps.によって表出された ser 文の出現が予想される．実際，今回の調査では，(36)のように ps.によって表出された ser 文の方が(37)のように imp.の ser 文よりも多かったが[20]，ここで重要なのは各形式の頻度よりも，時間的限定性が明白な「時」を示す補語名詞句が imp.によって表出された ser 文の中に出現したという事実だと考える．

2.1.1.4. que に導かれた名詞節が補語になる場合

ser 文の補語には，次のように接続詞 que に導かれた名詞節が出現することもあるが，この場合にも ps.による表出と imp.による表出が可能である．

(38) ··· El niño no tiene sensación de peligro para sí mismo: no ve su propia muerte. A quien tiene miedo es a sus padres y a sus maestros, que a veces son el primer ensayo de fascismo. El problema <u>fue</u> *que mientras duraba la guerra se tenía la sensación de que se iba hacia algo.* Cuando terminó no fue sólo un régimen político el que se fue, sino un concepto del mundo:... (1275:9)
子どもには自分自身にとっての危機感というのはありません．自分の死がみえないのです．子どもが怖がるのは両親であり学校の先生です，彼らは時にファシズムの最初の練習台ですが．問題は戦争が続く間みんなどこかに向かって消え去りつつあるという感じがしたことでした．戦争が終わったとき消え去ったのは政治体制だけではありませんでした，世界の概念も消え去ったのです．

(39) ··· Usted, inicialmente, no era partidario de los informativos en su cadena. ··· No

---

[19] 「出来事名詞句」を補語とする ps.の ser 文と同様，これらの文の補語名詞句には序数詞や最上級を示す形容詞が共起していることが多い．
[20] ps.よる表出は 7 例，imp.による表出は 5 例だった．

hay en las hemerotecas ni una sola declaración mía contra los informativos. Lo que yo planteé era *que los informativos deberían desarrollarse paralelamente con la ampliación de cobertura de las televisiones privadas.* (1270:77)
あなたは最初，あなたのチャンネルのニュース番組の味方ではありませんでした．…雑誌図書閲覧室にはニュース番組に対して私が何か言った記録はひとつもありませんよ．私が計画したのは，ニュース番組は民間テレビ局のカバー領域の拡大と平行して発展すべきだということでした．

(38)のように接続詞 que に導かれた名詞節を補語とする ser 文が ps.によって表出された例は全部で 3 例あったが，その主語となっていたのはそれぞれ el problema「問題」la solución「解決策」el resultado「結果」であった．そして，文脈から判断するならば，これら ps.によって表出された当該 ser 文はどれも，que 節の内容が主語の等価物として生起したことを示しているのが分かった．一方，(39)のように，接続詞 que に導かれた名詞節が imp.によって表出された ser 文の補語となっている場合，その主語はすべて lo que で始まる関係代名詞であった．このとき lo que 節中の形式は ps.のこともあれば imp.のこともある．この imp.によって表出された ser 文では，ps.による表出の場合とは異なり，ある時点で主語が示す事態と que 節の内容が等価物として生起した，あるいは，認識されたという解釈は生まれない．そこで示されのは，主語の示す内容と que の内容が過去において等号関係にあったという事実だけである．

2.1.2. 補語として形容詞句をしたがえる場合の意味特徴

次に ser の補語として形容詞句が出現する場合の ps.による表出と imp.による表出の違いをみてみよう．今回の調査では，補語に形容詞句をしたがえた ser 文のうち ps.で表出されたものは 98 例(98/376，26%)，imp.で表出されたものも 98 例(98/336，29.2%)で同数であったが，出現した形容詞句の意味特徴には以下にみられるような違いがあった．問題となる形容詞句は斜体で示す．

(40) … Antes de hacer esta película, usted iba a rodar <Noriega> con Al Pacino. ¿ Por qué no lo hizo ? … Porque hubo muchos problemas. Primero porque yo quería hacer una historia real, pero fue *difícil* conseguir los derechos para hacer la verdadera historia. (1260:71)
この映画を製作する前に，あなたは Al Pacino と Noriega を撮ることになっていました．なぜそうしなかったのですか．…なぜならたくさん問題が起こった(文字どおりには，あった)からです．第一に私はリアルな話を作りたかったのですが，本当の話にするための権利を獲得することは難しかった（のです）．

(41) Eso era considerado algo especial, pero para mí fue *terrible*, porque yo no era

ninguno de ellos y en los años 80, no hacer una película en dos años significaba que ningún estadio te quería. (1260:102)
それはなにか特別のことのようにみなされていました，でも僕にとってはひどいことでした，というのも僕は彼らのメンバーではなかったし，80年代に2年間に一本も映画を撮らないことは，どのスタジオもあなたを使いたがっていないことを意味していたのですから．

(42) --- Llegué a la música de rebote. Empecé haciendo informativos, pero al coincidir con el final del franquismo era *difícil* y *pesado* tratar temas políticos ya que exigían cinco copias de cada programa. (1260:107)
私は結果的に音楽にたどりつきました．私はニュース番組から始めたのですが，フランコ時代の終盤と重なって政治的テーマを扱うのは難しく面倒だった（んです），だって番組一つにつき5つのコピーを要求されていたのですから．

(43) Antes de la existencia de las 625 líneas, el planeta nos era *ancho* y *ajeno*. Ahora, gracias a ella, podemos acceder a la información más inmediata y a los lugares más recónditos. (1272:106)
625のラインが存在する前は，地球は私たちにとって広く無関係のものでした．現在は，そのラインの存在のおかげで，私たちはもっとも緊急の情報にもどんなに奥まった場所にもアクセスすることができるのです．

(44) Yo le decía que yo estaba pegada a los santos para que no le encontraran. Y no le decía que se entregara ni que se escondiera, porque él era muy *inteligente* y sabía qué camino seguir. Le decía que Dios es justo y nos va a ayudar. Él era muy *optimista* y nunca pensó que le pudiera ir mal. (1264:57)
私は彼（息子）に彼がみつけられないようにあらゆる聖人にすがっていると言っていました．でも，彼に自首しろとか隠れろなんてことは言いませんでした，だって彼はとっても利口だったし進むべき道を知っていたからです．私は彼に神は公平で私たちを助けてくださると言っていました．彼はとても楽観的で物事がうまく行かないかもしれないなんて考えもしませんでした．

(45) Llevo años lamentando su muerte, pero lo he hecho tarde. --- ¿ Por qué ? --- Por mi estúpido orgullo. Claro que, desde que fui *consciente* de ese problema, hago todo lo posible por frenarlo. (1265:72)
私は何年もの間彼の死を嘆いているのですが，遅すぎました．---それは，どうしてですか．---私のばかな自尊心のためです．もちろん，その問題に気づいて以来，それを抑えようとできるかぎりのことはしているんです．

(46) --- ¿ Durante estos años nunca les entraron ganas de abandonar ? --- Al principio no éramos *conscientes* de lo que ocurría. ((1268:105)
その何年間もの間諦めたくはなりませんでしたか．---最初，私たちは何が起こっているか気づいていなかった（んです）．

ps.によって表出された ser 文には，(40)(41)にみられるように，difícil「難しい」duro「厳しい」terrible「ひどい」といった主語に対する評価を表す形容詞句が出現することが多い．このとき当該 ser 文は，主語の示す事物・事態の生起を受けて，それがその生起時にどう評価・判断されるものだったかを示している．もちろん上記の評価を示す形容詞句は(42)のように imp.によって表出された ser 文にも出現することはあるが，この場合の ser 文は主語の示す事物・事態の過去における属性を示しているだけであり，ps.によって表出された場合のように，主語の指示物に対して当該形容詞句の表す評価があらたに生起したことを意味することはない．この imp.によって表出された ser 文の特徴は，(43)(44)が示すように，当該文に出現する形容詞句には個人的な評価を表すものよりも一般的な性質・品質を示す形容詞句のほうが多いという事実によっても示される．

以上のことをまとめると，補語形容詞句をしたがえた ps.の ser 文は，主語の指す事物・事態に対して補語形容詞の表す内容が過去のある時点であらたに成立したことを示すのに対し，imp.の ser 文は，単に補語の表す内容が主語の示す事物・事態の過去における属性であったことを示すだけだということになる．このような補語に形容詞句をしたがえた ser 文における ps.と imp.の解釈上の違いは同じ consciente「気づいた」という形容詞を補語とした(45)と(46)に明らかで，ps.によって表出された ser 文はある過去の時点において主語の指示する人物が補語形容詞の表す状態になった，そのような状態に移行したことを示すのに対し，imp.によって表出された ser 文は既定の過去時において主語の指示する人物が補語形容詞の状態であったことを示すだけであるのが分かる．最後に，ここでみた補語として形容詞句が出現した ser 文における ps.と imp.による表出の違いは，先にみた補語として名詞句をしたがえた ser 文における ps.と imp.による違いと共通するものであることを確認しておきたい．

2.1.3. 補語として副詞句をしたがえる場合の意味特徴

さて，スペイン語のコピュラ動詞 ser はその補語として「時」「場所」「様態」等を示す副詞句をしたがえることもできる．研究者また辞書によっては，このように副詞句をしたがえる ser を「行なわれる，起こる，生じる」という意味の本動詞として扱いコピュラとは別扱いにすることがあるが，本稿では取り合えず名詞句や形容詞句をしたがえた ser と同様にコピュラとして扱う．

今回の調査では，補語として副詞句をしたがえるもののうち 21 例が ps.による表出であり，7 例が imp.による表出であった．以下に例をあげる．当該副詞句は斜体で示す．

(47) ··· La SER ha sido la cadena donde más disfruté, <u>fue</u> *en los primeros años de los 80,* era la radio que marcaba la pauta, ... (1260:106)

SER は私がもっとも楽しんだチャンネルでした，それは 80 年代の初期でした，SER は模範

的なラジオ局でした.

(48) --- Recuerdo una foto del diario <El País> en la que José María Aznar estaba disfrazando de caballero de la Edad media, vestido de cruzado, con su medalla y todo. --- Cada uno busca su identidad. --- Era *en su etapa más joven*. (1264:24)
私は日刊紙 El País に出た一枚の写真を覚えています，その中で José María Aznar がメダルやなんかをつけた十字軍の衣装をつけて中世の騎士に変装していました．---ひとはそれぞれ自分のアイデンティティを探します．---それは彼がもっとも若かった時期でした.

(49) --- ¿ Por qué se casó con Madonna ? --- Por amor seguro que no, me gustaría decir que estaba borracho en el momento de casarme, pero no fue *así*. (1269:58)
なぜ Madonna と結婚したのですか. --- 愛情からじゃ絶対ないね，結婚の瞬間酔っ払っていたといいたいんだけど，そうじゃなかった（んだ).

(50) --- Vamos a ver el 3 de marzo si nos han abandonado. Usted está ya haciendo un balance electoral que todavía no está decidido. Es cierto que los sondeos así lo adelantan, pero tambíen lo hacían en ese sentido en 1993, y luego no fue *así*.
まあ 3 月 3 日に国民が私たちを見限ったかどうかみてみましょう．あなたはまだ決着のついていない選挙の決算をしているんです．確かに世論調査はそんなふうに選挙結果を先取りしていますが，1993 年のときだって世論調査はそんなふうでした，でもその後，(選挙結果は) そうではありませんでした.

(51) --- En cualquier caso, usted dice haber ignorado la situación de los judíos en esa época... ---Ya sé que parece sorprendente, pero cuando llegué a Vichy, después de 18 meses de cautiverio, *así* era. (1281:62)
いずれにせよ，あなたはその時代ユダヤ人の状況は知らなかったとおしゃっています．---驚くべきことのようにみえるのは分かっています，でも 18 ヶ月の捕虜生活の後 Vichy に到着した時は，そんなだった（んです).

(52) --- Creo que Pulp y Oasis son dos buenas bandas. Pero me molesta, como tío mayor que soy, su actitud. Ellos dicen que *así* eran los Rolling Stones, pero a mí me parece una locura. (1274:105)
Pulp と Oasis は二つのいいバンドだと思う．でも，俺は年上のおやじとして，彼らの態度は気に入らない．彼らは Rolling Stones がそんなふうだったって言うんだけど，俺には狂気の沙汰にみえるね.

補語として副詞句が出現する ser 文の ps.による表出と imp.による表出の違いは，これまでみてきた補語として名詞句，形容詞句が出現した場合と同じように解釈することができる．つまり，ps.による表出は，過去のある時点において主語の指示する事物・事態と補語となる副詞句との間にあらたに等号関係が成立したことを示し，imp.による表出は副詞句の示す内容が主語の指示するものの過去の属性であったことを示しているのである．こ

のとき，ps.によって表出された ser 文に出現した副詞句は，主語の示す指示物・事態が生起した際のあり方，換言すれば，問題とする事態が「いつ」「どこで」「どんなふうに」生起したのかを明示する機能を果たす．他方，imp.によって表出された ser 文に出現した副詞句は，過去における主語の指示物・事態の属性の一部分を構成しているにすぎず，ps.によって表出された ser 文に出現した副詞句のように，主語となる事態の生起そのものに言及することはない．以上の違いは，補語副詞句として同じ así「そのような」をしたがえた(49)(50)と(51)(52)の比較対照に明らかであろう．

2.2. 主語の意味特徴

2.1.では ser 文の補語に出現する名詞句，形容詞句，副詞句の意味特徴を手がかりに ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文の違いをみた．本項では，当該 ser 文の主語に注目しながら，その ps.による表出と imp.による表出の違いを観察してみたい．

周知のように，スペイン語では動詞の主語である名詞句あるいはそれに相当するものは表出されないことがある．したがって，主語による比較対照は補語の種類によるそれほどはっきりとした違いを確認することは難しいが，以下の点は ps.と imp.の差異に関与する傾向として指摘してもよいと思う．

まず，主語に付加された形容詞の種類である．2.1.1.1.でも指摘したように，ps.で表出された ser 文の主語には primero「最初の」，último「最後の」，定冠詞＋mejor/peor「最上の/最悪の」，único「唯一の」といった当該事態の順序や評価を示す形容詞をともなったものが目立つが(26 例)，imp.で表出された ser 文の主語にそのような形容詞が付加されたものは少ない(6 例)．また，このとき ps.の ser 文の主語と共起した当該形容詞は(53)(54)のように当該事態の時間軸上の順序や評価を示すものが多かったのに対し，imp.の ser 文の主語と共起した当該形容詞は(55)のようにもっぱら主語が指す事物の唯一性を強調するものであった．

次に，主語がモノを表すか出来事を表すかについてだが，これも先にみた補語名詞句の場合と等しく，主語がモノの場合の頻度は，imp.によって表出された ser 文(85 例)の方が ps.によって表出されたものより多かった(59 例)．同様の結果は，主語が人を表す場合についても観察され，ps.による表出は 106 例なのに対し，imp.による表出は 135 例であった．一方，主語が出来事名詞や不定詞あるいは前文の示す何らかの事態の場合には，頻度が逆転し，ps.による表出の方が imp.による表出よりも多かった(ps.136 例，imp.84 例)．以下，ps.と imp.のそれぞれの例をあげるが，(56)(57)は主語が出来事を示す名詞の場合，(58)(59)は主語が不定詞の場合，(60)(61)は主語が前文の事態の場合である．問題となる主語部分は斜体で示す．

(53) ---¿ Cuál fue su primer acto de verdadero disidente ? ---*Mi primer acto de*

resistencia fue marcharme de Alemania sin permiso. (1281:64)
あなたの真の反対派としての最初の行動はなんでしたか. ---私の最初のレジスタンス行動は許可なしにドイツから出ることでした.

(54) ---Pero *el mayor daño que hizo* fue engendrar la autocensura entre los propios creadores. (1272:67)
しかしそのことが行なった最大の害はクリエイター自身の間に自己規制を生んだことでした.

(55) ---Es que Perico trasciende el boxeo, es la España que quiere sacar la cabeza por donde puede. A él lo abandonó su madre, y *la única forma de salir adelante* era partirse la cara. (1266:101)
だって, Perico はボクシングを超越していますから, 彼はすきあらばどこからでも頭をもたげたがるスペインなんです. 母親は彼を捨てました, だから彼が先に進む方法は自分の顔をかち割っていくことしかなかった (んです).

(56) ---*El encuentro con Nashville, su mundo y su sonido*, ¿ fue una de las influencias estilísticas más importantes ? (1274:74)
Nashville, その世界, その音との出会いはもっとも重要な様式上の影響のひとつでしたか.

(57) ---¿ Cuál es el futuro inmediato de España, ya en el aspecto político ? ---Muy interesante. Creo que *el cambio* era necesario. (1270:45)
政治的面からみたスペインの近未来はどんなでしょうか. ---とても面白いです. 変化は必要だったと思います.

(58) ---En México, y en general en todos los pueblos latinos, tenemos esa idea del amor. Yo pienso que para mí fue todo un aprendizaje *el darme cuenta que no era cierto*. (1260:74)
メキシコ, そして一般に我々ラテンの人々は愛についてそんな考えをもっています. 私にとって, その考えが事実ではないということに気づいたのはまさにひとつの学習だったと思います.

(59) En aquella época era difícil *encontrar algo que realmente me gustara*. (1260:102)
あの時代本当に自分が気に入るものを見つけるのは難しかったです.

(60) ---Como forofo del Zaragoza, ¿ tuvo usted ídolos deportivos en esa época ? ---Claro, Nino Arrúa, (…). Era un ídolo equiparable a Perico Fernández, (…). Hace un par de años me lo encontré por la calle, y fue algo impresionante. (1266:101)
Zaragoza の大ファンとして, その時代スポーツのアイドルはいましたか. ---もちろん, Nino Arrúa です. (…) 彼は Perico Fernández に匹敵するアイドルでした. (…) 数年前, 私は彼に道でであいましたが, それは何か感動するものでした.

(61)---Porque en ese momento hacer mimo era una cosa que estaba mal vista. Entonces hicimos un espectáculo en el que recogimos todos los gags que hacíamos en una sala

de fiestas en Barcelona, e irrumpimos en el panorama teatral. Y no era fácil, (…) (1261:70)
なぜならそのときパントマイムをするのは見た目が悪いものだったからです．それで私たちは Barcelona のダンスホールでやっていたギャグを全部入れたショーをやり，演劇界に殴り込みをかけました．それは簡単ではなかったです．(…)

以上，ps.によって表出された ser 文に出現する主語と imp.によって表出された ser 文に出現する主語の特徴をまとめるならば，補語の場合と同様に，ps.の ser 文は出来事・事態を示す主語と親和性があるのに対し，imp.の ser 文はモノ・人といった事物を示す主語と結びつきやすいということができる．

2.3. 時の副詞句との共起について

次に，ps.によって表出された ser 文，imp.によって表出された ser 文それぞれと共起する時の副詞句の種類および当該副詞句と共起した ser 文がどのように解釈されるかをみてみる．ps.および imp.と時の副詞句との共起関係については，すでに山村(1997b，1999，2000，2001)が扱っているが，本稿では特に ser 文における ps.ならびに imp.と時の副詞句との関係に焦点があたることになる．

今回の調査で採取された ps.あるいは imp.で表出された ser 文と共起した副詞句には次のようなものがある．当該副詞句は斜体で示す．

(62) Sólo dos sabían que el mejor puesto de España en un Mundial fue el cuarto, *en 1950*. (1269:103)
たった二人しかワールド・カップでスペインの最高位は 1950 年に 4 位だったということを知りませんでした．

(63) …*En 1992* usted fue el árbitro del desenlace electoral entre George Bush y Clinton, con la acusación republicana de que se restó votos a Bush. (1273:59)
1992 年，あなたは George Bush と Clinton の選挙決着のレフリーでした，Bush から票を奪ったと共和派から非難をあびましたが…

(64) *En 1942* tenía 25 años y era un perfecto desconocido. (1281:62)
1942 年，私は 25 歳で完全な無名人でした．

(65) No obstante, ese cambio se ha producido más lentamente. Recuerdo que, *en 1978*, era casi impensable que un escritor vasco fuera traducido al castellano. (1282:102)
しかしながら，その変化はもっとゆっくり起こりました．私は覚えているのですが，1978 年には，バスクの作家がスペイン語に訳されるなんてほとんど考えられませんでした．

(66) Fue la primera, *hace más de 30 años*, en publicar autores como Susan Sontag. (1283).

その出版社は，30年前にSusan Sontagのような作家を出版した最初だった．

(67) Yo misma he madurado. Era muy alocada *hace tres años*, despedía fuego continuamente. Ahora ese fuego está un poquito más calmado. (1285:97)
私自身成長しました．3年前私はとても無分別でした，絶えず火を噴いていました．今はその火もちょっとばかし落ち着いています．

(68) ··· He sido un poco así, (···). También empecé a salir de noche muy tarde... Y mis primeras vacaciones fueron con una amiga y sus padres *a los 14 años*. (1264:103)
私は少しそんなふうでした．夜外出しはじめたのもとっても遅かったし．で，私の最初のバカンスは女ともだちとそのご両親と一緒に14歳の時でした．

(69) Fue precoz. Igual que la nueva ministra de Cultura, María Jesús Muriel *a los 23 años* ya era jueza. Han pasado 16 años desde entonces y ahora dirige el Juzgado de Primera Instancia número 25, de familia, en Madrid. (1280:28)
彼女は早熟だった．新文化大臣と同じく，María Jesús Murielは23歳ですでに裁判官だった．そのときから16年が経ち，現在彼女はMadridの家庭裁判所の第一審25号を率いている．

(70) ··· La gente no valora las instituciones políticas, en parte porque las desconoce. *Cuando* fui senadora me sorprendió tener que explicar a mucha gente en qué consistía el Senado, porque no lo sabían. (1274:24)
（一般の）人々は政治機関を評価しませんが，それは一部は彼らがそういった機関のことを知らないからなのです．私は上院議員になったとき（文字通りには，上院議員だったとき），多くの人たちに上院がどういうものかを説明しなければならないことに驚きを覚えました，というのもその人たちが上院を知らなかったから（なの）です．

(71) ···¿ Le atrae el mundo gitano ? ··· *Cuando* era estudiante hice algunos reportajes, no sólo sobre gitanos, también sobre los marginados. (1270:10)
あなたはジプシーの世界に引かれますか．···私は学生だったときジプシーだけではなく社会から疎外された人たちについていくつかのルポルタージュを作りました．

(72) ···Eso es puro disparate. *Antes de las largas temporadas en que estuvo lesionado*, él fue uno de mis competidores más duros. (1282:108)
それはまったくばかげてます．長期にわたって怪我をしていたシーズン前，彼は私にとってもっとも手強い対戦相手の一人でした．

(73) Es cierto que *antes del año 90* mi actitud era estúpida e irresponsable en muchas ocasiones, pero eso pertenece al pasado, a una etapa negra de mi vida que está enterrda. (1280:70)
確かに，1990年以前私の態度はしばしば愚かで無責任でした，でもそれはもう過去，葬られた私の人生の暗黒時代のものとなっています．

(74) Se trata, empero, de etapas fáciles de relatar. La verdadera resistencia fue, *desde*

el primer día, la del espíritu y, cada día, la negativa a aceptar la muerte de mi país.... (1281:64)

しかし，これはまだ語るのが簡単な時期の話です．本当の抵抗は，第一日目から，精神のそれ（抵抗）でした，毎日，自分の国が死ぬのを受け入れることに反対する抵抗だった（のです）．

(75)[21] Es la única dama alférez de la Guardia Civil que hay en España. Con sólo 21 años, Cristina Moreno ha abierto para la mujer el camino de una profesión que *hasta 1988* era exclusiva de los hombres. (1280:26)

彼女はスペイン国家警察唯一の女性少尉である．たった 21 歳で Cristina Moreno は 1988 年まで男性専用だった職業の道を女性のために切り開いたのである．

(76)[22] *Durante las negociaciones de paz de los años 90*, (…), Aronet Díaz *fue* objeto de un atentado junto a su cuñado, eminente político, pero su atentado pasó desapercibido. (1280:29)

90 年代の平和交渉の間，Aronet Díaz は著名な政治家である義理の兄弟とともにテロの標的であったが，そのテロは人目につかずに終わった．

(77)…Hay tantas cosas, que no se pueden ni contar. Esta historia que era como inocente *durante los primeros meses de guerra* –de lo que habla esta película－se convirtió en una guerra de verdad. (1275:79)

語ることさえできないたくさんのことがあります．戦争の最初の数ヶ月間はたわいもなくみえたこの話が－この映画はそのことについて語っているのですが－本当の戦争に変わったのです．

(78) Para empezar, se divorció de su primer marido, Gene Dickinson, para centrarse en su trabajo televisivo de la NBC. Luego fue *tres años* <chica de Warner> y durante otros tres <de la Universal>. (1283:102)

まず最初に，あなたはNBCのテレビの仕事に集中するために，最初のご主人Gene Dickinsonと離婚しました．その後，3 年間 Warner の女性キャスターでした，そしてもう 3 年は Universal のキャスターでした．

(79) … El guión de Sentido y Sensibilidad, ¿ ha sido importante para usted ? … *Siempre* fui una admiradora acérrima de la escritora Jane Austin... (1269:52)

Sentido y Sensibilidad の脚本はあなたにとって重要でしたか．…私は常に作家 Jane Austin の熱心なファンだった(んです)．

(80) Precisamente nací en un pueblo en el que mi padre fue alcalde *dos veces*, y ni mi padre ni yo hemos caciqueado nunca. (1266:36)

私はまさに父が二度村長になった（文字どおりには，だった）村で生まれましたが，父も私

---

[21] インタビューを受ける相手のプロフィールを紹介する記事の中に出た例．

[22] インタビューを受ける相手のプロフィール紹介の記事の中に出現した例．

もボス政治を行なったことは一度もありません.

(62)から(73)までは同じ種類の時の副詞句と共起した ps.と imp.をペアにして並べたものである．他方，(74)(75)と(78)から(80)は少なくとも今回の調査では ps.によって表出された ser 文か imp.によって表出された ser 文のどちらか一方にしか出現しなかった時の副詞句との共起の例である．以下，順を追ってみていく．

(62)から(65)は時間軸上の年を表す en+西暦「…年に」という時の副詞句が共起した ps.文と imp.文のペアである．これらの例をその文脈をよく考慮して解釈するならば，ps.による表出は「主語＝補語」という記号で示すことのできる主語と補語の等号関係が成立したことを示し，当該副詞句はまさにその成立時を表しているのに対し，imp.による表出は「主語＝補語」の関係が当該副詞句の示す時点において有効（真偽関係でいう真）なことを表しているだけで，ps.による表出のように，主語と補語の間に等号関係が成立したこと自体に言及しているわけではないことが分かる．ps.による表出と imp.による表出の間にみられるこのような解釈上の違いは，hace+期間表現「…前」と共起した(66)(67)のペア，a+年齢表現「…歳で」と共起した(68)(69)のペアの間にも観察される．このことから，(70)(71)のように cuando「…するとき」節に出現した ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文の間にも同様の違いが存在すると推測されるが，この推測が正しいことは当該二例の出現した文脈から明らかだと思われる[23].

(72)(73)は antes de+時間表現「…の前，以前」と共起した ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文のペアであるが，先にみたペアと同様の違いが観察される．ただ，このペアでひとつ指摘しておきたいのは，この副詞句の一部である antes（単独で使用されると「以前，かつて」という意味になる）と共起した imp.による ser 文は単に当該副詞句の示す時点において主語と補語の等号関係が有効であることを示すだけでなく，その等号関係が発話時においては無効になっていることを含意することが多いという点である．このことは(73)でも確認できるだろう．このように過去と現在を比べ，当該事態が現在において無効であることを示す imp.の用法はしばしば「対照の imperfecto」[24]と呼ばれるが，(73)はこの用法が ser 文にも当てはまることを示すものである．さて，「対照の imperfecto」が当該事態の発話時における無効性，換言すれば，発話時における終結を示す imp.の用法だという点に注目するならば，imp.は当該事態の開始・終結には言及しな

---

[23] このことは cuando 節に出現した ps.によって表出された ser 文の主語が人の場合には，(70)のように日本語で「…が～になったとき」と訳せることが多いという事実によっても示される．日本語で人を示す主語とその補語の間にあらたに等号関係が成立したことを表す際には，「～だった」ではなく「～になった」という表現が用いられるからである．次例を比較対照されたい．

i) a.私は 1995 年にその大学の講師になった．b.私は 1995 年にその大学の講師だった．

ii) a.私は 3 年前その大学の講師になった．b.私は 3 年前その大学の講師だった．

[24] Cf. Porto Dapena(1989:96)

いとするアスペクト説にとっては看過できない現象のはずである．にもかかわらず，山村(1997a)でも指摘されたとおり，アスペクト説側からこの現象に対して明解な説明が行なわれたことはかつてない．

(74)(75)は desde+時間表現「…から」と hasta+時間表現「…まで」という期間に関して相反する方向性を示す時の副詞句と共起した ps.による表出と imp.による表出の例である．このペアはアスペクト説の反例とみなされるという点で看過できないものである．というのも，第1節でも述べたように，もしアスペクト説のいうように ps.による表出が当該事態の時間的限定性に言及するものならば，それは当該事態の有効期間を明示する hasta+時間表現と共起することは予想できても desde+時間表現と共起することは予想できないはずなのに，実際は(74)が示すように，ps.によって表出された ser 文がこの副詞句と共起することには何の問題もないからであり，また一方，アスペクト説によれば，当該事態の時間的限定性には言及しないはずの imp.によって表出された ser 文が当該事態の有効期間を示す hasta+時間表現と共起しているからでもある[25]．このうち imp.による表出と hasta+時間表現の共起およびその結果得られる当該事態の発話時における無効性については，García Fernández(2000:328)のように取り消し可能な単なる implicatura conversacional「会話の含意」とする研究者もいるが，(75)の内容は決して取り消し可能なものではない．このことは(74)(75)が解釈上からもアスペクト説の反例とみなされうることを示唆するものであるが，ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文の意味するところ，ーすなわち，(74)は主語と補語の間に等号関係が成立したこと，そして，その関係が当該副詞句の示す時点より有効であったことを示し，(75)は主語と補語の間にすでに等号関係が存在していたこと，そして，その等号関係が当該副詞句の示す過去の時点において真であったことを示すーを考慮するならば，この示唆は十分説得力のあるものと考えられる．

(76)(77)(78)も(74)(75)と同じく有効期間に言及する副詞句との共起を扱ったものである．(76)(77)は durante+時間表現「…の間」と共起した ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文のペアであるが，先にみた(74)(75)と同様の解釈が可能である．つまり，ps.による表出の(74)は主語と補語の間に等号関係が成立したこと，そして，その等号関係が当該副詞句の示す期間有効であったことを示すと解釈されるのに対し，imp.による表出の(77)はすでに存在していた主語と補語の等号関係が当該副詞句の示す期間の間において有効であったことを示すと解釈されるのである．ところが，同じ期間を表す副詞句でも(78)の tres años のように durante を伴わないものの振る舞いは上でみたものとはかなり異なってくる[26]．このように名詞句がそのまま期間を表す副詞句として機能する場

---

[25] 興味深いことに，今回の調査結果によると，desde+時間表現と共起した ser 文はすべて ps.による表出であり，他方，hasta+時間表現と共起した ser 文はすべて imp.による表出であった．

[26] 山村(1999)でも指摘されたように，durante に導かれていても定冠詞や形容詞句といった限定表現を伴わない時間表現は imp.によっては表出されにくい．次例を参照されたい．

合には，imp.による表出が大変困難となるからである．実際，今回の調査でも，durante なしの期間を表す副詞句はすべて ps.によって表出されており，imp.による表出は皆無であった．従来のアスペクト説は(78)のような例をその妥当性を示すもっとも分かりやすい例として取り上げてきたが，なるほどアスペクト説の妥当性を否定するには，なぜ durante なしの期間副詞句と共起する際には imp.による表出が難しいのかに対する明解な回答を用意しておく必要があると思われる．

最後の(79(80)は頻度を表す副詞句と共起した例だが，今回の調査では ps.によって表出された ser 文しか確認されなかった．siempre「いつも，常に」という副詞は imp.によって表出された ser 文とも共起可能であることがよく知られているので[27]，今回の調査結果をもって imp.による表出は頻度を示す副詞句とは共起しにくいという結論を出すことはできない．しかし，本項でみてきた ps.によって表出された ser 文の意味するところ，一例えば，主語と補語の間に等号関係が成立したということを示すこと，また，当該文と共起した時の副詞句は主語と補語の等号関係の成立時を示すことなど一，を考慮するならば，当該事態の生起頻度に言及するこれらの副詞句がとりわけ ps.によって表出された ser 文に親和性を示すのにはそれなりの理由があると思われる[28]．

2.4. その他の特徴

本項では，上でみた補語や主語の特徴あるいは時の副詞句との共起の可能性以外で，ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文の違いに関与していると思われる現象を取り上げる．

2.4.1. la primera vez の出現について

まず，最初に取り上げるのは la primera vez「１回目」という名詞句との共起のあり方である．この名詞句は，接続詞 que に導かれた節の示す事態の生起が初めてであることを表すが，ps.によって表出された ser 文にも imp.によって表出された ser 文にも出現することができる．以下の例を参照されたい．

(81) Un año después, me encontré con Simon Peres en Israel. Le mostré el mismo dibujo, él dibujó una flecha, puso encima <solución> y firmó también. Esta fue *la*

---

*Juan estaba nervioso *durante dos horas*. (García Fernández 1998:28)
フアンは二時間緊張していた．(estaba は estar の imp.)

[27]例えば，imp.によって表出された María era *siempre* amable.「María はいつも親切だった」は ps.によって表出された María fue *siempre* amable「María はいつも親切だった」と同じく文法的である．

[28] García Fernández(Ibid.:31-34)によれば，alto「背が高い」のようないわゆる estado permanente「永続的な状態」(Kratzer の言葉でいう individual-stage)を示す形容詞が siempre と共起する際には，次例が示すように当該 ser 文は ps.によってしか表出されないという．
Siempre fue alto. 彼はいつも背が高かった．**Siempre* era alto. 彼はいつも背が高かった．

primera vez que existió un documento que reunía la firma de los líderes. (1283:80)
1年後，私は Israel で Simon Peres に会いました．私は同じ絵を彼に見せました，彼は一本矢印を書いて，その上に<解決策>と書き，サインもしました．リーダーたちのサインを集めた書類が存在したのはこれが初めてでした．

(82) ---Hacer teatro es muy divertido. Hace un año estuve en Inglaterra y dirigí una versión de Hamlet. Era *la primera vez* que dirigía algo.
芝居をやるのはとっても楽しいです．1年前私はイングランドに行って Hamlet を演出しました．何かの演出をするのは（それが）初めてでした．

(83)--- ¿ Cuándo fue *la primera vez* que se sintió atraído por la guitarra ? (1260:105)
ギターに魅力を感じた最初はいつでしたか．

(84)---¿ Qué le pareció Japón, una cultura tan diferente ? ---*La primera vez* que estuvimos en este país fue en 1984, nos sentimos unos bichos raros. (1282:121)
日本，あの異なった文化はあなたにはどうみえましたか．---僕たちがその国に行った最初は1984年でした，自分のことがなんかへんな奴って気がしました．

上記の例に明らかなように，la primera vez が出現する ser 文では当該 ser の時制形式と que 節内の時制形式が一致する．この点においては，ps.によって表出された ser 文，imp.によって表出された ser 文の間に違いはないが，それ以外の点に関しては，次に指摘するような違いが観察される．

まず，(81)と(82)の間にみられる la primera vez と等号関係にあるはずの主語の存在についてである．ps.によって表出された ser 文に出現した la primera vez には，(81)が示すように，対応する主語が明記されていることが多い[29]．この主語には esta「これ」のほかに，esa「それ」 aquella「あれ」というスペイン語にある3種類の指示代名詞のどれもがなることができる．このように ps.によって表出された ser 文でその主語となる指示代名詞の選択ができるということは，la primera vez を修飾する que 以下に示された事態がそれだけ時間軸上の特定の出来事として認知されていることを示すものだと思われる．一方，imp.によって表出された ser 文に出現した la primera vez にはこのような主語が明示されることがない[30]．この imp.文の特殊性は，imp.によってしか表出されないスペイン語の時間表現と平行した現象と考えられるであろう[31]．なぜなら，当該文における imp.による表

---

29 今回の Cambio16 に基づく調査では esta「これ」しか確認されなかったが，yahoo.es による検索では， esa「それ」，aquella「あれ」を主語とした例が見つかった．

30 これは Cambio16 に基づく調査のみならず，後日実施した yahoo.es による検索でも確認された結果である．

31 以下にスペイン語の時間表現の例を示す．
i) ¿ Qué hora es ahora ? --- Son las ocho. 今何時ですか． 8時です．
ii) ¿ Qué hora era/*fue entonces ? そのとき何時でしたか．
--- Eran/*Fueron las ocho. 8時でした．
i)は発話時の時間を表現する文，ii)は過去の特定の時間を表現する文である．ii)が示すように，

出は，時間表現の場合と同様に，la primera vez「1回目」を当該過去時・過去場面の属性として提示しているだけのように解釈されるからである．

上記のことと関連してもうひとつ指摘しておきたいのは，la primera vez 自身が ser 文の主語になれるかどうかである．(83)(84)に明らかなように，ps.によって表出された ser 文では la primera vez は主語として機能し，その補語として時の副詞句をしたがえることができる．これに対して，imp.によって表出された ser 文に出現する la primera vez は，(82)が示すように ser の補語としてしか機能することができず，ps.の ser 文に出現するそれのように，部分疑問文の中に出現したり補語として時の副詞句をしたがえることはできない．この imp.文にみられる制約も先に指摘した時間表現にみられる imp.文の制約と同様の現象と考えることができるだろう[32]．

2.4.2. 部分疑問文，強調構文における振る舞い

観察の最後として，ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文が出現する文のタイプを比較対照してみる．ここで特に指摘したいのは，部分疑問文と強調構文における当該二形式の振る舞いの違いである．以下の例を参照されたい．

(85) ---¿ Y cuál fue el período más negativo de todo el franquismo ? --- Sin duda alguna, a parte de la guerra misma, la inmediata posguerra.(1272:8)
全フランコ体制のなかでもっともネガティブな時期はいつ（文字どおりには，どれ）でしたか．---戦争時代は別として，それは間違いなく戦争直後です．

(86) ---¿ Cómo fue su trabajo con Baldwin ? --- Correcto. Nos conocemos desde hace 12 años, (…). (1274:98)
Baldwin との仕事はどうでしたか．---当を得たものでした．私たちは 12 年前から知っていますから．

(87) Por eso tenemos que ir hasta las últimas consecuencias para averiguar si se infiltraron esos dineros y, si ello fue así, saber quién fue el responsable, cómo, cuándo, (…). (1274:61)
だから，私たちは最後の結果まで行かなければならないんです，そのお金が潜入したのかどうかを調べるために．で，もしそうだったら，その責任者が誰だったのか，どうやって，いつそんなことが起こったのかを調べるためにね．

(88) ---¿ Cómo era el presidente Nixon, según su opinión ? (1268:75)

過去の時間を表す場合には imp.しか用いられない．また，ahora「今」entonces「そのとき」はどちらも副詞で ser の主語ではなく，これらの時間表現に主語となる名詞句が明記されることはない．

[32] 例えば，時間表現においては次のような疑問文は奇妙である．*¿ Cuándo eran las ocho ? 8 時はいつでしたか．これと同じことが la primera vez が imp.によって表出された ser 文に出現した場合にも起こっているのではないかということである．

あなたのご意見にしたがえば，Nixon 大統領はどんな人でしたか.

(89) ---Para usted, ¿ quién era Pablo Escobar ? ---Después de Dios. Pablo. Él era el más bueno, tierno, cariñoso. (1264:57)

あなたにとって Pablo Escobar とはだれだったのですか. ---神様の次に，Pablo です. 彼はもっとも善く，もっとも優しく，もっとも愛情あふれる人でした.

(90) ---Contó con la colaboración de la banda Double Trouble, la que acompañó a Steve Ray Vaughan. ¿ Cómo fue su relación ? ¿ Se extrañaron al ver a un latino tocando blues ? ---Sí, se sorprendieron. (1260:105)

Double Trouble という Steve Ray Vaughan の伴奏をしたバンドに協力を仰がれました. 彼らとの関係はどうでしたか. 彼らはラテン系の人間がブルースを弾いているのをみて変に思いましたか. ---ええ，驚きました.

(91) --- ¿ Cuáles eran las relaciones de Franco con Hitler, con Mussolini, y con Petain ? ---Las propias de un primo hermano, (…). (1272:9)

Franco の Hitler, Mussolini,そして Petain との関係はどうでしたか. --- いとこに特有の関係でした.

(92) --- ¿ Cuándo fue *la primera vez* que se sintió atraído por la guitarra ? (1260:105)

ギターに魅力を感じた最初はいつでしたか.

(85)から(87)までは ps.によって表出された ser 文の例，(88)(89)は imp.によって表出された ser 文の例である.

さて，部分疑問文における ps.の ser 文，imp.の ser 文の振る舞いは，先に見た補語に出現した名詞句や形容詞句との関係において観察された両形式の振る舞いにそのまま対応したものとなっている. すなわち，ps.によって表出された ser 文には(85)のように評価を示す形容詞の最上級を伴った主語，(86)のように出来事を示す主語，あるいは，(87)のように出来事の関係者を示す主語が頻出し，当該疑問文はその主語の指す事物・事態とどのような補語の間に等号関係が成立したかを問うものとなっているのに対し，imp.によって表出された ser 文には(88)(89)にみられるように具体的な人を指す主語やモノを指す主語が出現することが多く，当該疑問文はその主語の過去における属性を尋ねるものとなっているのである. この ps.による表出と imp.による表出の間にみられる違いは，例えば，同じ relación「関係」という名詞を主語とした(90)(91)の比較に明らかであろう.

また，(92)のように時の疑問詞 cuándo「いつ」を含む部分疑問文の中に出現したのが ps.によって表出された ser 文だけであったことは特に強調しておきたい. これまでみてきたように，ps.によって表出された ser 文が主語と補語の間に等号関係が成立したことを示すものだとするならば，その等号関係の成立時を問うことも不可能ではないと予想されるが，この cuándo 文はまさにその成立時を尋ねる疑問文として解釈されているからである.

ところで，今回の調査では，強調構文として出現する頻度に関しても ps.による ser 文と

imp.による ser 文の間で違いがみられ，imp.によって表出された ser 文が強調構文に出現した例は(93)の 1 例のみであったのに対し，ps.によって表出された ser 文が強調構文として出現した例は 16 例もあった[33]. さらに，この ps.で表出された 16 例のうち 6 例までが(94)のように当該事態の成立時を強調としたものだった点は注目に値する.

(93) ···Me han dicho de todo. Los jóvenes tienen más sentido de humor que los mayores y era *a éstos* a quienes yo buscaba porque como se acuestan más temprano podían picar más fácilmente. (1269:109)
私はいろんなことを言われました．若い人は大人よりもユーモアのセンスがあります．この若者たちこそ私が探していた人たちでした，というのも彼らは早く寝ますから，より簡単にえさに食いつけたんです.

(94) Les ofrecimos uno de estos cuatro temas y tuve una gran acogida en el público. Fue *entonces* cuando decidimos presentar este proyecto a varias compañías discográficas. (1267:105)
私たちは 4 つのテーマのうち 1 つを彼らに提供しました，そして聴衆にいい評判を取った（んです）．私たちがこのプロジェクトをいろんなレコード会社に提示しようと決心したのはまさにそのときでした.

これまでの観察から，ps.は当該命題の生起そのものを示し，imp.は当該命題をある過去時における状況・状態として提示するという仮説が立てられるなら，談話(discurso)の中に出現する ps.はその談話の主筋に相当する事態を表し，imp.はその談話の background となる情景描写を表すと予想されるだろう[34]．そうなれば，ps.によって表出された ser 文が強調構文として出現しやすいというのは自明のことのように思われる．なぜなら強調構文と ps.による表出は，談話の流れの中のある特定の要素を際立たせるという機能を互いに共有しているからである.

2.5. まとめ

以上，ser 文の ps.による表出と imp.による表出の違いを補語，主語，共起する副詞句の種類，当該文の文のタイプにしたがって観察した．その結果を項目ごとにまとめると次のようになる.

---

[33] ここで扱う強調構文には，ser の補語として不定詞が出現する場合は含まれていない．同場合は強調構文ではなく，補語として名詞句が出現する場合としてカウントされたからである.
[34] Cf. Gutiérrez Araus(1995), pp.27-36.

I　補語の種類ごとの違い

① 補語として名詞句をしたがえる場合：

ps.によって表出された ser 文	imp.によって表出された ser 文
・ 補語となる名詞句には出来事を示すものが多い．このとき当該 ser 文は，主語の指示事態が過去のある時点に生起し，それが補語の示す内容のように評価されたこと，その評価の成立自体を示す． ・ 補語となる名詞句が人を示す場合も上と同様に，当該 ser 文は，過去のある時点における主語の指示人物に対して補語が指す評価・価値判断が成立したことを示す． ・ 補語となる名詞句が出来事・人以外を指すときも同様で，当該 ser 文は，主語の指示物・指示事態に対してどのような評価・価値判断が成立したかを示す．	・ 補語となる名詞句にはモノ・人といった非出来事を指すものが多い． ・ 当該 ser 文は，既定の過去時における主語の属性を示すだけであり，ps.によって表出された ser 文のように，主語の指示物・指示事態に対して補語の示すような評価・価値判断があらたに成立したことを示すことはない．

②補語として形容詞句をしたがえる場合：

ps.によって表出された ser 文	imp.によって表出された ser 文
・ difícil「難しい」duro「厳しい」terrible「ひどい」といった主語に対する個別的評価を表す形容詞句が出現することが多い． ・ 当該 ser 文は，ある過去の時点において生起した主語の事物・事態を受け，それに対して当該形容詞句の示す評価が成立したことを示す．	・ 一般的な性質・形質・品質を表す形容詞句が出現することが多い． ・ 当該 ser 文は既定の過去時において，主語の指示物・指示事態が補語形容詞句の示す属性を持っていたことを示す．

③補語として副詞句をしたがえる場合：

ps.によって表出された ser 文	imp.によって表出された ser 文
・ 主語の示す事物・事態が過去に生起した際のあり方，換言すれば，当該の指示物・事態が「いつ」「どこで」「どのように」生起したのかを明示する．	・ 副詞句の示す内容が主語の指示物・指示事態の過去の属性であったことを示す．

II　主語の特徴による違い：

ps.によって表出された ser 文	imp.によって表出された ser 文
・ 主語には primero「最初の」 último「最後の」定冠詞＋mejor/peor「最上の/最悪の」, único「唯一の」といった当該事態の順序や評価を示す形容詞を伴ったものが目立つ. ・ 主語には出来事名詞や不定詞あるいは前文の指示内容がくることが多い.	・ 主語にはモノ・人といった事物を示す名詞句がくることが多い.

III　時の副詞句との共起による違い：

ps.によって表出された ser 文	imp.によって表出された ser 文
・ 時間軸上の時点を示す副詞句と共起した場合, 当該 ser 文は主語に対して補語の示すような評価が成立したことを示し，当該副詞句はその評価の成立時を示す. ・ 開始点を示す desde＋時間表現と共起することができる．これはアスペクト説の反例である. 当該 ser 文は主語に対して補語が示すような評価が成立したことを示し，当該副詞句はその開始点を示す. ・ 期間を示す副詞句と共起した場合，当該 ser 文は主語に対して補語が示すような評価が成立し，それが当該副詞句の示す期間の間有効だったことを示す. ・ siempre, dos veces といった頻度を示す副詞句と共起することができる．このとき当該 ser 文は, 主語と補語の等号関係が当該副詞句の示す頻度で成立したことを示す.	・ 時間軸上の時点を示す副詞句と共起した場合, 当該 ser 文は主語が補語の示す属性を持ち，それが当該副詞句の示す時点において有効（真）であったことを示す．ps.による表出のように，当該副詞句が主語に対する評価の成立時を示すことはない. ・ antes を含んだ副詞句と共起した当該 ser 文は，補語の示す主語の属性が発話時において無効であることを含意することがある. ・ 終結点を示す hasta＋時間表現と共起することができる．これはアスペクト説の反例である．当該 ser 文は，補語の示す主語の属性が，hasta+時間表現が示す過去時において有効（真）であったことを示す. ・ 期間を示す副詞句とも共起するが，これもアスペクト説に対する反例である．当該 ser 文は，補語の示す主語の属性が当該副詞句の示す期間の間有効(真)であったことを示す. ・ 頻度を示す副詞句との共起には制約がある.

Ⅳ　その他の特徴による違い

①la primera vez の出現について：

ps.によって表出された ser 文	imp.によって表出された ser 文
・ esta「これ」esa「それ」aquella「あれ」のような指示代名詞を主語として出現することが多い. ・ la primera vezが当該ser文の主語となり，補語として時の副詞句をしたがえることができる.	・ 当該 ser 文に主語が明記されることはない．これは時間表現と共通する現象である. ・ la primera vezが当該ser文の主語となることはない.

②部分疑問文・強調構文における振る舞い：

ps.によって表出された ser 文	imp.によって表出された ser 文
・ 部分疑問文では評価を示す形容詞の最上級を伴った主語，出来事を示す主語，あるいは，出来事の関係者を示す主語が頻出し，当該疑問文はその主語の指す事物・事態に対してどのような評価が成立したかを問う. ・ 当該 ser 文は強調構文で頻出する．また，その強調構文には当該事態の成立時に言及したものが多い	・ 部分疑問文では具体的なモノ・人を示す名詞句が主語となることが多く，当該疑問文はその主語の過去における属性を問うものとなっている. ・ 当該 ser 文が強調構文で出現することは ps.によって表出されたものほど多くない.

さて，以上の ps.によって表出された ser 文の説明の中に出てくる「主語の指示物・指示事態に対する評価の成立」という文言は，換言するならば，「主語と補語が示す内容との間に等号関係が成立した」ということである．また，同様に，imp.によって表出された ser 文の中にでてくる「主語に対する属性」あるいは「補語の示す内容が主語の属性」という文言は，「主語と補語の示す内容の間に等号関係が存在している」と言い換えることができる．これらにしたがうならば，ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文の間にある違いは，次のようにまとめられる.

- ps.によって表出された ser 文は，ある過去の時点において，主語と補語の示す内容との間に等号関係(=)が「成立」したことを示す.
- imp.によって表出された ser 文は，既定の過去時において，主語と補語の示す内容の間に等号関係が「存在」していること，つまり，主語と補語の間にある等号関係が「真」であることを示す.

次節では，この結論が山村(1996)で提起された ps.と imp.の新しい解釈でどのように説明されるのかをみる．

3. 考察：山村(1996)を基にして

本節では，前節で得られた ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文の観察結果を説明する枠組みとして山村(1996)で提起された ps.と imp.に対する新しい解釈を取り上げ，その妥当性を検討していく．

3.1. 山村(1996)

ここで取り上げる山村(1996)は Rojo(1974)で提唱された temporalidad lingüística「言語的時性」という概念に依拠しながら，ps.と imp.の機能的差異に関して，アスペクト説とは異なる新しい解釈を提示したものである．Rojo の唱えた temporalidad lingüística とは，言語の示す時性の本質は基準になる時点とそれに対する時間関係，すなわち，前時関係，同時関係，後時関係から成り立つとするもので，彼はこの考えに基づき ps.と imp.の機能をそれぞれ次のように公式化した．

ps.：O-V　imp.：(O-V)oV

O は origen と呼ばれるもので発話時に相当する．また，ps.の公式中にある-V は前時関係を示す記号で，imp.の公式中にある oV は同時関係を示す記号である．したがって，Rojo(1974)では，ps.は発話時に対して前時関係にある事態を示し，imp.は発話時以前にある時点に対して同時関係にある事態を示すと規定されていることになる．山村(1996)はこの Rojo(1974)に基づきながらも，この規定にいくつかの重要な修正を加え，ps.と imp.の機能をあらたに次のように規定しなおした．

ps.：O-V = O(~Prop. & Prop.)　imp.：PoV

山村(1996)では，Rojo(1974)において-V という記号で表されていた前時関係があらたに(~Prop.&Prop.)という記号に書き換えられた．この記号は当該命題の不成立から成立への変化を示したものである．この記号の変更は，山村(1998)で確認されたように，ps.の示す前時性とは単に命題の時間軸上の定位の仕方を表すのではなく，その命題が表す事態の生起に関する我々の認知の有無に深く関わるものであるという認識から生まれたものである．また，Rojo(1974)で(O-V)で示されていた発話時以前の時点が山村(1996)では P という記号に置き換えられているが，これは既定の過去時を示すものである．その意味するところが Rojo の(O-V)と大きく違わないにも拘らず，あえて P という記号を導入したのは，Rojo の ps.の公式中にある(O-V)と imp.の公式中にある(O-V)が根本的に異なる性質のものである

ことを明示するためである．つまり，上で述べたように，ps.の(O-V)は当該命題の不成立から成立への変化の認知という話者の認識に関わるものなのに対し，imp.の(O-V)は単に基準になる時点が時間軸上のどこにあるかということを問題にしているにすぎないのである[35]．さらに，山村(1996)では，imp.が presente と oV，すなわち，基準時に対する同時関係を共有していることが強調されている点も再度確認しておきたい．これは presente が発話時に対して同時関係にある命題を示すのと同じように，imp.は既定の過去時に対して同時関係にある命題を示すということで，簡単にいえば，imp.は presente で表出されたものが既定の過去時にシフトされたものにすぎないということを示す[36]．

さて，Rojo(1974)に修正を加えた山村(1996)の ps.と imp.に対する新しい解釈は，次のようにまとめることができる．

ps.: O(~Prop. & Prop.)=発話時からみた「当該命題の不成立から成立への変化」の認知を示す．

imp.: PoV =当該命題が既定の過去時と同時関係にあることを示す．このとき，当該命題は presente で表出されたものと等しい．

3.2.山村(1996)の ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文への応用

本項では，上でみた山村(1996)の ps.と imp.に対する解釈が ps.によって表出された ser 文および imp.によって表出された ser に対してどのように応用されるかをみる．これは，いわば山村(1996)の解釈の妥当性の検証である．

3.2.1. 山村(1996)の ps.によって表出された ser 文に対する応用

まず，ps.によって表出された ser 文が山村(1996)によってどのように説明されるかをみてみよう．山村(1996)の規定によれば，ps.は当該命題の不成立から成立への変化の認知を示すということであったが，これを前節でみた ps.によって表出された ser 文の振る舞いに当てはめるならば，次のように解釈されることになる．すなわち，

ps.によって表出された ser コピュラ文における当該命題の不成立から成立への変化とは，

---

35 先にも述べたように，ps.あるいは imp.の一方でしか表出されない命題が存在するという事実こそ，ps.の(O-V)と imp.の(O-V)が基本的に異なったものであることを強く示唆するものである．

36 スペイン語の presente と imp.の機能的平行性は，例えば，以下の直接話法から間接話法への変換時にみられる presente から imp.への転換，あるいは，presente によって表出可能な命題は必ず imp.によっても表出可能であるという事実によって確認される．

i) José me dijo: —Soy de Madrid. ホセは私に「僕は Madrid の出身です」と言った．
José me dijo que era/*fue de Madrid. ホセは私に Madrid の出身だと言った．

ii) Son las ocho. 8時です．
Eran/*Fueron las ocho. 8時でした．

主語(X)と補語(Y)との間に等号関係(=)が成立したこと，そのこと自体を指す.

以上のことを記号で示すと次のようになる.

ser 文の ps.による表出：O{(X Ø Y) & (X=Y)}

(X Ø Y)は主語(X)と補語(Y)の間に関係が成立していないことを示す. この無関係の X と Y の間に等号関係が成立したことを示すのが & (X=Y)の部分である.

主語(X)と補語(Y)の間に等号関係が成立したということは主語(X)が補語(Y)の等価物として認知されたことを意味し，これは第２節で観察した ps.によって表出された ser 文の諸現象ー主語，補語に出来事名詞を示すものが多いこと，その補語は主語の指示する事物・事態に対する評価を表すものであること等ーとうまく合致する.

上記のように解釈された ps.によって表出された ser 文と共起した時点を示す副詞句は，定義上，主語と補語の間の等号関係が成立した「成立時」を示すことになる. このことを先にみた記号で表せば次のようになる.

ser 文の ps.による表出と時点の副詞句：O{ (X Ø Y) & (X=Y)}＋Adv.T

Adv.T は時の副詞句を示す. また，{ }は ps.の ser 文が示す主語と補語の間の等号関係の成立を示す. そして，Adv.T はこの{ }を修飾していることから，それが主語と補語の間に生起する等号関係の「成立時」を示すという解釈になるわけである. この具体例として以下を参照されたい.

(62) Sólo dos sabían que el mejor puesto de España en un Mundial <u>fue</u> el cuarto, *en 1950.* (1269:103)
たった二人しかワールド・カップでスペインの最高位は 1950 年に４位だったということを知りませんでした.

(63) ···*En 1992* usted <u>fue</u> el árbitro del desenlace electoral entre George Bush y Clinton, con la acusación republicana de que se restó votos a Bush. (1273:59)
1992 年，あなたは George Bush と Clinton の選挙決着のレフリーでした，Bush から票を奪ったと共和派から非難をあびましたが...

(62)の ps.によって表出された ser 文は，主語である el mejor puesto de España en un Mundial と補語である el cuarto の間に等号関係が成立したのが en 1950「1950 年」であったことを示し，(63)の ser 文は，主語である usted と補語である el árbitro del ...の間に等号関係が成立したのが en 1992「1992 年」であったことを示している. 同様の解釈は当

該 ser 文が cuando 節中に出現した(70)についてもあてはまる.

(70) … La gente no valora las instituciones políticas, en parte porque las desconoce. *Cuando* fui senadora me sorprendió tener que explicar a mucha gente en qué consistía el Senado, porque no lo sabían. (1274:24)
（一般の）人々は政治機関を評価しませんが，それは一部は彼らがそういった機関のことを知らないからなのです．私は上院議員になったとき（文字通りには，上院議員だったとき），多くの人たちに上院がどういうものかを説明しなければならないことに驚きを覚えました，というのもその人たちが上院を知らなかったから（なの）です．

(70)には ps.によって表出された ser 文を修飾する時の副詞句は出現していないが，主語 yo「私」と補語 senadora「上院議員」の間に等号関係が成立した時点を問うことは不可能ではないだろう．同様のことは，主語がモノの場合にもあてはまる．

(95) ¡ La película fue fenomenal ! その映画は最高だった！（筆者作成）

(95)の主語 la película「その映画」と補語 fenomenal「すばらしい」の等号関係の成立時は，主語の指示する映画に対して補語の示す評価が成立した時，すなわち，当該の映画の鑑賞時ということになる．

3.2.2. 山村(1996)による?? Yo fui niño. Yo fui un niño bueno. Yo también fui niño の解釈

さて，第 1 節では，補語に niño「こども」が出現した ser 文は ps.によって表出されるのが大変困難であることをみたが，ここではこの現象を山村(1996)にしたがって再解釈してみる．

(96) ?? Yo fui niño. 私はこどもだった．（筆者作成）
(97) Yo fui un niño bueno. 私はいいこどもだった．（筆者作成）

第 1 節でみたように，(96)のように限定詞を何も伴わない niño「こども」を補語とした ser 文が ps によって表出されることは大変難しいが，その niño に bueno「よい」のような評価を示す形容詞が付加された(97)は文法的となる．これら二例の文法性の違いを今新たに主語と補語の間の等号関係の成立という観点から解釈しなおすと，次のようになるだろう．

まず，(96)が非文になるのは，主語 yo「私」と補語 niño「こども」の間に等号関係が成立するような状況を想像するのが難しいからだと思われる．つまり，山村(1996:97)も述べているように，niño「こども」というのは人間の成長過程における初期状態であり，niño

「こども」から joven「若者」mayor「大人」という別の状態に移行する場面は想像できても，新たに主語の指示人物と補語 niño の間に等号関係が成立するような場面を想像することは困難なのである．これに対して，(97)のように補語の niño に評価を示す形容詞が付加される場合は，主語と補語の間に等号関係が成立する場面を想像するのはまったく容易である．なぜなら，主語が指示する人物の過去の活動・行動において一度でも un niño bueno「いい子」と評価されることがあったら，そのときこそ主語と補語の間に等号関係が成立したことになるからである．(97)が文法的とみなされるのはこのためである．

さて，以上のように考えるならば，一見例外にみえる次例も山村(1996)の枠組みの中で説明可能に思われる．

(98) ¿ Te acuerdas de ello ? --- Sí, claro, es que yo también fui niño.[37]

君，そのことを覚えていますか．---ええ，もちろん，だって私もこどもだったから．

(98)は限定詞を何も伴わない niño を補語としているにも拘らず ps.による表出が可能となっている ser 文である．(96)と(98)の間の違いは副詞 también「…もまた」が存在するか否かだけなので，(98)の文法性はもっぱらこの副詞の存在に因っていると考えられるが，なぜこの también が共起すると通常非文とみなされる文が文法的になるのだろうか．その鍵はこの文が出現する文脈にあると思われる．というのも，当該文は，(98)のように，人間であれば誰でも一度は経験した「こども」時代を忘れたような人，あるいは，その「こども」時代があったとはとても想像されない人が，自分もまた他の人と同じようにこどもだった，こども時代があったのだということを確認する（あるいは相手に確認させる）ために発せられるのが常だからである．すなわち，(98)が文法的なのは，それがもっぱら yo también fui niño という文が発せられても奇妙に感じられないような特殊な状況で発話されるからにほかならない．このように考えるならば，(98)は決して山村(1996)および本稿の主張に反するものではないということになろう．それが発話される状況においては，ps.によって表出された ser 文の持つ「主語と補語の間の等号関係の成立の表示」という機能が正しく働いていると考えられるからである．

3.2.3. 山村(1996)の imp.によって表出された ser 文に対する応用

次に山村(1996)で規定された imp.の機能と imp.で表出された ser 文の関係をみる．山村(1996)によれば，imp.は当該命題が既定の過去時に対して同時関係にあること，そして，この命題内容自体は presente によって表出されるものと等しいということであった．これ

---

[37] この例文は 1995 年 10 月，大阪外国語大学で開催された第 41 回日本イスパニヤ学会において筆者が ??Yo fui niña.と Yo era niña.の文法性の違いについて指摘した折，数名のスペイン語話者の方から反例として提供されたものである．貴重なデータ提供に対して，記して謝意を表したい．

を前節でみた imp.によって表出された ser 文の振る舞いに当てはめるならば，次のように解釈される．すなわち，

imp.によって表出された ser コピュラ文は，既定の過去時において，主語(X)と補語(Y)との間に等号関係(=)が存在していること，換言すれば，当該時において，主語(X)と補語(Y)の間の等号関係が真であることを示す．

以上のことを記号で示すと次のようになる．

ser 文の imp.による表出：P{(X=Y)}

(X=Y)は主語(X)と補語(Y)の間にすでに等号関係が存在していることを示す．そして P{(X=Y)}はこの等号関係が P の示す既定の過去時において有効(真)であることを指す．

このように解釈された imp.によって表出された ser 文と共起した時点を示す副詞句は，定義上，主語と補語の間の等号関係が有効である P，すなわち「既定の過去時」を示すことになる．このことを先にみた記号で表せば次のようになる．

ser 文の imp.による表出と時点の副詞句：P(Adv.T){(X=Y)}

P は既定の過去時を示すだけであり，ps.の ser 文と共起した時点の副詞句のように，主語と補語の間の等号関係の「成立」時を示すことはない．この解釈の具体例として以下を参照されたい．

(64) *En 1942* tenía 25 años y era un perfecto desconocido. (1281:62)
1942 年，私は 25 歳で完全な無名人でした．

(64)では，en 1942 が imp.による表出に必須の既定の過去時 P の役目を果たしている．このことを先に見た記号で示すと次のようになる．

(64)' P(en 1942){(X=Y)
= P(en 1942){X(yo)=Y(un perfecto desconocido)}
= P(en 1942)(yo soy un perfecto desconocido)

(64)に出現する imp.によって表出された ser 文の解釈は(64)'のようになる．P(en 1942)は imp.による表出に不可欠な既定の過去時が en 1942 によって示されていることを表し，{X(yo)=Y(un perfecto desconocido)}は，その既定の過去時において主語 yo と補語 un

perfecto desconocido との間に等号関係が存在することを，また，(yo soy un perfecto desconocido)はその等号関係の presente による具体的表出を表している．

imp.によって表出された ser 文に対するこのような解釈は，第2節で指摘された期間を示す副詞句と共起した当該 ser 文をも以下のように説明することができる．

(75) Es la única dama alférez de la Guardia Civil que hay en España. Con sólo 21 años, Cristina Moreno ha abierto para la mujer el camino de una profesión que *hasta 1988* era exclusiva de los hombres. (1280:26)
彼女はスペイン国家警察唯一の女性少尉である．たった 21 歳で Cristina Moreno は 1988 年まで男性専用だった職業の道を女性のために切り開いたのである．

(75)は期間の限界を示す hasta 1988「1988 年まで」という副詞句が imp.によって表出された ser 文と共起した例で，アスペクト説にとっては都合の悪いものであった．当該事態の開始・終結に言及しないはずの imp.が当該事態の終結を明示する副詞句と共起し，しかも当該事態が発話時において無効であることが文脈から明らかであったからである．しかし，山村(1996)に基づく本稿の解釈にしたがえば，この例も無理なく説明されることになる．以下を参照されたい．

(75)' *Hasta 1988* (la profesión) era exlusiva de los hombres.
1988 年までその職業は男性専用だった．
P(hasta 1988){X(la profesión)=Y(exclusiva de los hombres)}
= P(hasta 1988)(la profesión es exclusiva de los hombres)

すなわち，上でみた本稿の imp.の解釈によれば，期間の限界を表す hasta 1988 によって想起される過去時が imp.の出現に不可欠な P となり，imp.によって表出された ser 文はこの過去時に対して主語 la profesión と補語 exclusiva de los hombres が等号関係にあることを示しているということになるのである．同様のことは durante「…の間」に導かれた副詞句と共起した次例についてもあてはまる．

(77)…Hay tantas cosas, que no se pueden ni contar. Esta historia que era como inocente *durante los primeros meses de guerra* –de lo que habla esta película－se convirtió en una guerra de verdad. (1275:79)
語ることさえできないたくさんのことがあります．戦争の最初の数ヶ月間はたわいもなくみえたこの話が－この映画はそのことについて語っているのですが－本当の戦争に変わったのです．

(77)' Esta historia era como inocente durante los primeros meses de guerra.

この話は戦争の最初の数ヶ月間はたわいもなくみえた.

P(durante los primeros meses de guerra){X(esta historia)=Y(como inocente)}

= P(durante los primeros meses de guerra)(esta historia es como inocente)

(75)では副詞句 durante los primeros meses de guerra が指示する過去時が P となり，当該 ser 文はこの P に対して同時関係にある事態, すなわち, 主語 esta historia が補語 como inocente と等号関係にあることを示しているのである．以上のように，山村(1996)にしたがった解釈では，当該事態そのものの時間的限定性の有無は一切問題にならない．むしろそこで問題になるのは，imp.の表出に欠かせない既定の過去時 P の存在といえる．

この既定の過去時 P の存在と直接に関係した現象として考えられるのが第 2 節でみた，限定詞を何も伴わない期間を表す副詞句は imp.とは共起しにくいという現象である．以下を参照されたい．

(99) *Eran novios (durante) cuatro años[38]. 彼らは 4 年間恋人だった．(筆者作成)

(99)のように imp.によって表出された ser 文が非文になるのは, 次のように考えられる．

(99)' *P((durante) cuatro años){X(ellos)=Y(novios)}

(99)" P(文脈内の既定の過去時)*{X(ellos)=Y(novios)+Adv.T((durante) cuatro años)}

=P(文脈内の既定の過去時)*(ellos son novios (durante) cuatro años)

本稿の主張にしたがえば(99)が非文なのは次のように説明される．まず，(durante) cuatro años が P と解釈された場合を考えてみよう．この場合は(99)'のように分析されることになる．このとき問題になるのは *P((durante) cuatro años)が示すように，(durante) cuatro años だけでは既定の過去時が指示されないという点である[39]．つまり，(99)が非文になるのは，同文が imp.の表出に必要な「既定の過去時」を欠いているからなのである．一方，(99)には(99)"のような分析も可能であろう．この分析では文脈中に出現した既定の過去時が P となり，(durante) cuatro años は主語 X と補語 Y の等号関係を直接修飾する副詞句と解釈される．しかし，実際にはこの解釈も非常に困難である．その理由は*(ellos son novios durante cuatro años)が示すように，ser の presente によって表出された主語と補語の等号関係が durante cuatro años のような副詞句と共起すること自体が難しいか

---

[38] durante cuatro años, cuatro años のどちらも同じように非文になる．

[39] durante cuatro años「4 年間」, cuatro años「4 年」が，これだけで既定の過去時を指示することができないというのは，例えば，次の例にみられるように，これらの副詞句が未来形とも共起できるという点に明らかと思われる．二重線は未来形を指す．Viviré en Barcelona (durante) cuatro años. 私は 4 年間 Barcelona に住むだろう．

らなのである[40].

3.2.4. ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文の交替

最後に，本稿が主張する解釈にしたがうならば，第 2 節でみた ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文の交替がうまく説明されるのをみる.

(28)---①Usted fue *vecina* de Felipe González en su casa de Madrid. ②¿ Era *un buen vecino*? (1265:67)
あなたはFelipe González の Madrid の自宅のお隣さんでした. 彼はいいお隣さんでしたか.

先にみたように，上記の例では同じ言語外現実に対応する場面が①の ps.と②の imp.の異なる形式によって表出されていた．このような例をここで ps.と imp.の交替と呼んでおこう.

さて, このような ps.と imp.の交替は, 本稿の解釈にしたがえば次のように分析される.

①' Usted fue *vecina* de Felipe González en su casa de Madrid.
O{ [(X(usted) Ø Y(vecina de...) & (X(usted)=Y(vecina de...)]} + (Adv.T)

(28)①の ps.によって表出された ser 文は上のように分析される．つまり，発話時以前のある時点において主語 usted と補語 vecina de ...の間に等号関係が成立したことを示しているわけである．ただ，①ではその等号関係が成立した「成立時」は明示されていない．しかし，山村(1996)および本稿では，当該事態が ps.によって表出された限り，明示されるか否かとは別に，当該事態には必ずその「成立時」が設定されると考える．上記の＋(Adv.T)はそのことを示している.

一方，上記の①の後に出現した imp.によって表出された②は，次のように分析される.

②' ¿ Era *un buen vecino*?
P((①Adv.T))¿ {X(él)=Y(un buen vecino)} ?
=P((①Adv.T))¿ (él es un buen vecino) ?

ps.によって表出された ser 文の後を受けて発話された②の特徴は，②'が示すように，その

---

[40] しかし，García Fernández(1999:3146)もいうように，imp.による表出と durante+限定詞なしの時間表現の共起の可能性は多分に語用論的なものと思われる．その証拠に，García Fernández によれば，次例は通常非文とみなされるが，もし既定の過去時において主語 Juan が 3,4 年間 Salomé を愛するのを習慣にしているという状況が保証されるものならば文法的になるという．*Juan amaba a Salomé durante varios años. フアンは数年間サロメを愛していた.

P が①の成立時と等しいという点である．つまり，②は①の成立時において，主語 él と補語 un buen vecino の間の等号関係が真であったか否かを問うているのである．

しかし，同じ ps.と imp.の交替でも，その順序が逆転した次の例では分析が異なる．

(100)---¿ Amaba a Sarah ? --- ①Era una relación muy estrecha. ---②¿ Fue esta relación amorosa con Sarah Ferguson beneficiosa para su profesión ? ---No; me perjudicó mucho. (1283:75)

あなたはサラを愛していましたか．---とても親密な関係でした．---Sarah Ferguson とのこの恋愛関係はあなたの仕事にとって有益でしたか．---いいえ，ずいぶん私を傷つけました．

(100)の imp.によって表出された ser 文①と ps.によって表出された ser 文②はどちらもインタビューを受けた人物と Sarah Ferguson との関係について言及したものであり，その意味において，この例は(28)と同様に，共通した言語外現実に対応する imp.と ps.の交替とみなされる．しかし，ここでの imp.と ps.の交替は(28)のそれとは違った分析を受ける．

①' P(前文と同じ既定の過去時){X(Sarah との人間関係)=Y(una relación estrecha)}
=P(前文と同じ既定の過去時)((Sarah との人間関係) es una relación estrecha)

②' ¿ O{ [(X(esta relación...) Ø Y(beneficiosa...) & (X(esta relación)=Y(beneficiosa...)]}+ (Adv.T) ?

①'は，imp.によって表出された ser 文①が，同じく imp.で表出された前文において想定された既定の過去時をその P としながら，この P において主語と補語の等号関係が真であることを示したものであることを表している．一方，②'は，ps.によって表出された ser 文②が，①において言及された relación を主語とし，それと補語 beneficiosa の間に等号関係が成立したか否かを問うたものであることを示している．この(100)においてみられる imp.と ps.の交替と(28)の交替の間には，ps.によって表出された ser 文の成立時と imp.によって表出された ser 文の P の関係について大きな違いがある．

ps.から imp.への交替である(28)では ps.の成立時(Adv.T)が imp.の P となっていたが，imp.から ps.への交替である(100)では，imp.の P と ps.の成立時の間に(28)にみられたような直接の関係は認められない．このことから，ps.による表出はそれまで設定されていた既定の過去時をいったんリセットし新たに発話時を基準時としながら当該命題の成立時である過去時を導入するのに対し，imp.による表出は常にその出現に不可欠な既定の過去時を求め自らが新たな過去時を導入することはないと考えることができる．先にみた両形式の談話における差異ーすなわち，ps.は談話中の主筋を表出し，imp.はその background を

表出するという差異ーはまさにこのような ps.と imp.の基本的な機能の差異と深く関連したものといえよう.

4. 結論に代えて

以上，スペイン語の過去の単純時制形式である ps.と imp.のもっとも基本的な機能を探るために，コピュラ動詞 ser における両形式の振る舞いを観察し，それに分析・考察を加えてきた．その結果は以下のようにまとめられる.

- コピュラ動詞 ser の ps.による表出および imp.による表出の実態をみると，ps.と imp.の基本的差異は時間的限定性の有無にあるとする従来のアスペクト説ではうまく説明されないものが存在することが分かる.
- 本稿で観察された ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文の振る舞いは，山村(1996)で提起された ps.と imp.の基本的機能の定義ーすなわち，ps.は発話時からみた「当該命題の不成立から成立への変化」の認知を示す．一方，imp.は当該命題が既定の過去時と同時関係にあることを示し，このとき，当該命題は presente で表出されたものと等しいーという定義の妥当性を示すものであった.
- 山村(1996)の ps.と imp.の定義にしたがえば，ps.によって表出された ser 文と imp.によって表出された ser 文は，それぞれ次のように解釈される.

ps.によって表出された ser 文：
発話時以前のある時点において，主語と補語の間に等号関係が「成立」したことを示す．なお，これは以下のように公式化される.
ser 文の ps.による表出：O{(X Ø Y) & (X=Y)}
ser 文の ps.による表出と時点の副詞句：O{(X Ø Y) & (X=Y)}＋Adv.T

imp.によって表出された ser 文：
既定の過去時において，主語と補語の間に等号関係が「存在」すること，換言すれば，既定の過去時において主語と補語の間の等号関係が「真」であることを示す．なお，これは以下のように公式化される.
ser 文の imp.による表出：P{(X=Y)}
ser 文の imp.による表出と時点の副詞句：P(Adv.T){(X=Y)}

参考文献

Alarcos Llorach, E. (1980[3]): *Estudios de gramática funcional de español,* Madrid:Gredos.

Carrasco Gutiérrez, A. (1998): *La correlación tiempos en español,* tesis doctoral, la Universidad Complutense de Madrid.

García Fernández, L. (1998): *El aspecto gramatical en la conjugación*, Madrid: Arco/Libros, S.L.

----- (1999): "Los complementos adverbiales temporales. La subordinación temporal", *Gramática descriptiva de la lengua española*, editado por Bosque, I. & Demonte, V., pp.3129-3208, Madrid: Espasa Calpe.

----- (2000): *La gramática de los complementos temporales*, Madrid: Visor Libros, S.L.

Gutiérrez Araus, Mª. L. (1995): *Formas temporales del pasado en indicativo,* Madrid:Arco/Libros, S.L.

Kratzer, A. (1995): "Stage-level and Individual-level Predicates", en Carlson, G.N. & Pelletier, F.J. (eds.) *The Generic Book* , pp.125-175.

Miguel, E. de (1999): " El aspecto léxico", *Gramática descriptiva de la lengua española*, editado por Bosque, I. & Demonte, V., pp.2977-3059, Madrid: Espasa Calpe.

Porto Dapena, J. A. (1989): *Tiempos y formas no personales del verbo*, Madrid: Arco/Libros, S.A.

Rojo, G. (1974): "La temporalidad verbal en español", *Verba* 1, pp.68-149, Universidad de Santiago de Compostela.

山村ひろみ(1996)：「canté/cantaba のアスペクト対立に基づく解釈をめぐって」*HISPANICA* 40(日本イスパニヤ学会発行), pp.48-62.

-----(1997a): 「対照の imperfecto」『言語科学』第 32 号(九州大学言語文化部言語研究会発行), pp.153-180.

-----(1997b): 「ser コピュラ文の pretérito による表出について」『独仏文学研究』第 47 号(九州大学独仏文学研究会発行), pp.81-102.

------(1997c): 「canté 形, cantaba 形と時間的限定性」*HISPANICA* 41(日本イスパニヤ学会発行), pp. 53-66.

-----(1998): 「pretérito による表出のための条件－無生主語文の場合」『言語文化論究』No.9 (九州大学言語文化部発行), pp. 185-207.

-----(1999): 「スペイン語の imperfecto と時間的限定性」『言語文化論究』No.10(九州大学言語文化部発行), pp.11-32.

-----(2000): "Unas dudas sobre la interpretación basada en la oposición aspectual del pretérito simple y el pretérito imperfecto" 『言語文化論究』No.12(九州大学大学院言語文化研究院発行), pp.145-154.

----- (2001):"La función básica del pretérito imperfecto y la delimitación temporal", *Estudios Hispánicos* 21(Asociación Coreana de Hispanistas 韓国イスパニヤ学会発行), pp.311-317.